

II 結果の概要（受けた医療に対する満足度）

1 がんについて、医師により説明を受け、初めて治療を開始したときのこと

（問5、問6関係）

（1）医師から受けた診療に関する説明の状況（問5）

初めて治療を開始したときに、診療に関することについて医師からの説明に関する問のいずれかに「はい」と回答した患者は97.6%(641件)となっている。（表1）

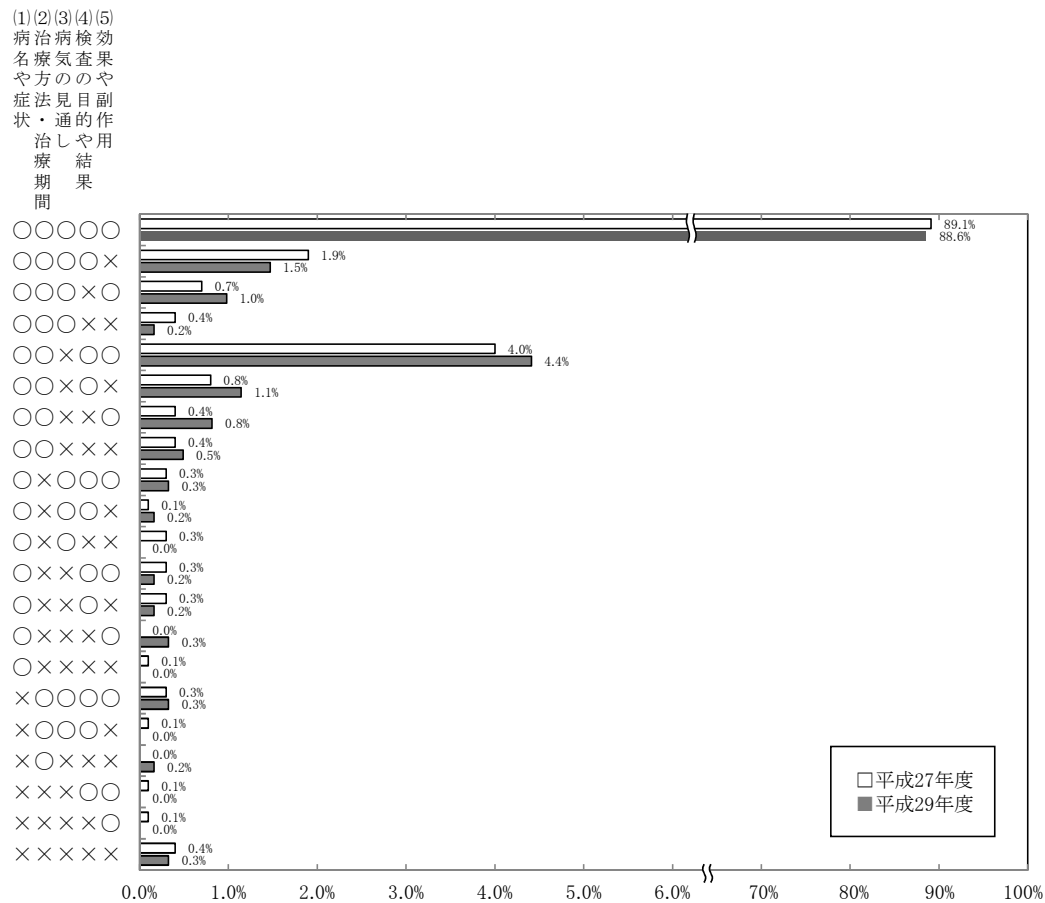
説明の内容の組み合わせをみると、全質問項目の説明を受けた患者が88.6%と最も多く、次いで「病気の見通し」の説明だけが無かった患者の4.4%となっている。（図1）

表1 医師から受けた診療に関する説明の状況（基本集計）

	H29年度（回答数：657）				H27年度（回答数：782）			
	はい	いいえ	わからない	無回答	はい	いいえ	わからない	無回答
(1) 病名や病気による症状の説明はありましたか？	635 (96.7)	5 (0.8)	0 (0.0)	17 (2.6)	765 (97.8)	8 (1.0)	0 (0.0)	9 (1.2)
(2) 治療の方法や治療期間の説明はありましたか？	625 (95.1)	11 (1.7)	0 (0.0)	21 (3.2)	754 (96.4)	15 (1.9)	0 (0.0)	13 (1.7)
(3) 病気のその後の見通しについて説明はありましたか？	574 (87.4)	54 (8.2)	0 (0.0)	29 (4.4)	710 (90.8)	53 (6.8)	0 (0.0)	19 (2.4)
(4) 各種検査の目的や結果の説明はありましたか？	611 (93.0)	21 (3.2)	0 (0.0)	25 (3.8)	742 (94.9)	22 (2.8)	0 (0.0)	18 (2.3)
(5) 治療(手術、化学療法、放射線療法)の効果や副作用(術後の障害を含む)について説明はありましたか？	599 (91.2)	29 (4.4)	0 (0.0)	29 (4.4)	733 (93.7)	37 (4.7)	0 (0.0)	12 (1.5)
上記の問に対して、いずれかに「はい」と回答したもの	641 (97.6)				772 (98.7)			

注：（ ）内は、回答数に対する割合(%)である。

図1 医師から受けた説明の内容の組み合わせ（基本集計）



(2) 医師から受けた説明の分かりやすさ等の状況（問5）

初めて治療を開始したときの医師から受けた説明の分かりやすさ等の状況を見ると「はい」と回答した患者は、「丁寧に詳しくされた」が89.3%で最も多くなっている。（表2）

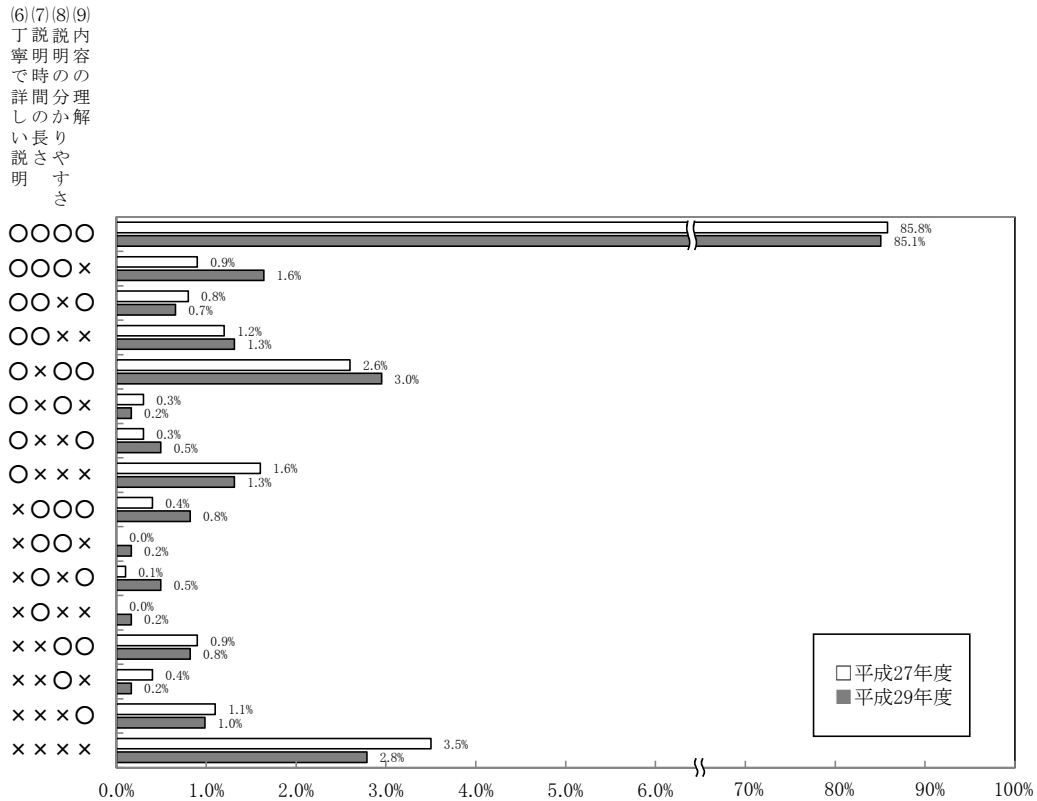
分かりやすさ等の組み合わせをみると、全質問項目に「はい」と回答した患者が85.1%と最も多くなっている。（図2）

表2 医師から受けた説明の分かりやすさ等の状況（基本集計）

	H29年度（回答数：657）				H27年度（回答数：782）			
	はい	いいえ	わからない	無回答	はい	いいえ	わからない	無回答
(6) 医師からの説明は、丁寧に詳しくされましたか？	587 (89.3)	43 (6.5)	0 (0.0)	27 (4.1)	715 (91.4)	50 (6.4)	0 (0.0)	17 (2.2)
(7) 医師の説明にかける時間はちょうど良いと思いませんか？	562 (85.5)	61 (9.3)	0 (0.0)	34 (5.2)	672 (85.9)	81 (10.4)	0 (0.0)	29 (3.7)
(8) 医師の説明は分かりやすかったですか？	571 (86.9)	54 (8.2)	0 (0.0)	32 (4.9)	695 (88.9)	68 (8.7)	0 (0.0)	19 (2.4)
(9) 医師の説明で、内容は理解できましたか？	572 (87.1)	50 (7.6)	0 (0.0)	35 (5.3)	690 (88.2)	62 (7.9)	0 (0.0)	30 (3.8)

注：（ ）内は、回答数に対する割合（%）である。

図2 医師から受けた説明の分かりやすさ等の組み合わせ（基本集計）



(3) 他の医師からの意見聴取（セカンドオピニオン）の状況（問5）

初めて治療を開始したときに、「他の医師に意見を聞きたいと思ったか」の間に「はい」と回答した患者は26.0%となっており、実際に「他の医師に意見を聞いたか」の間に「はい」と回答した患者は18.1%となっている。

セカンドオピニオンについての医師からの説明の有無について「はい（あった）」と回答した患者は37.6%となっており、「セカンドオピニオンを知っていたか」の間に「はい」と回答した患者は60.1%となっている。（表3）

表3 他の医師からの意見聴取（セカンドオピニオン）の状況（基本集計）

	H29年度（回答数：657）				H27年度（回答数：782）			
	はい	いいえ	わからない	無回答	はい	いいえ	わからない	無回答
(10) 病気のことで他の医師に意見を聞きたいと思いましたか？	171 (26.0)	458 (69.7)	0 (0.0)	28 (4.3)	228 (29.2)	534 (68.3)	0 (0.0)	20 (2.6)
(11) 病気のことで他の医師に意見を聞く（セカンドオピニオン）ことが出来ることについて説明がありましたか？	247 (37.6)	372 (56.6)	0 (0.0)	38 (5.8)	300 (38.4)	450 (57.5)	0 (0.0)	32 (4.1)
(12) 病気のことで他の医師に意見を聞く（セカンドオピニオン）ことが出来ることについて知っていましたか？	395 (60.1)	234 (35.6)	0 (0.0)	28 (4.3)	461 (59.0)	299 (38.2)	0 (0.0)	22 (2.8)
(13) 病気のことで他の医師に意見を聞きましたか？	119 (18.1)	511 (77.8)	0 (0.0)	27 (4.1)	125 (16.0)	641 (82.0)	0 (0.0)	16 (2.0)

注：（ ）内は、回答数に対する割合（%）である。

(4) 相談支援、緩和ケアについての状況（問5）

初めて治療を開始したときに、「相談窓口に相談したいと思ったか」の間に「はい」と回答した患者は18.9%となっており、「相談しましたか」の間に「はい」と回答した患者は6.7%となっている。

体や心の痛みを和らげるための支援（緩和ケア）を「受けたいと思ったか」の間に「はい」と回答した患者は31.4%で、「受けましたか」の間に「はい」と回答した患者は16.0%となっている。（表4）

表4 相談支援、緩和ケアについての状況（基本集計）

	H29年度（回答数：657）				H27年度（回答数：782）			
	はい	いいえ	わからない	無回答	はい	いいえ	わからない	無回答
(14) 病気のことで不安になり、医療機関の「相談窓口」や「がん相談センターこうち」に相談をしたいと思ったことはありますか？	124 (18.9)	511 (77.8)	0 (0.0)	22 (3.3)	154 (19.7)	615 (78.6)	0 (0.0)	13 (1.7)
(15) 病気による不安について、医療機関の「相談窓口」や「がん相談センターこうち」に相談をしましたか？	44 (6.7)	592 (90.1)	0 (0.0)	21 (3.2)	53 (6.8)	714 (91.3)	0 (0.0)	15 (1.9)
(16) 病気による体や心の痛みを和らげるための支援を、医療機関で受けたいと思いましたか？	206 (31.4)	421 (64.1)	0 (0.0)	30 (4.6)	255 (32.6)	503 (64.3)	0 (0.0)	24 (3.1)
(17) 病気による体や心の痛みを和らげるための支援を、医療機関で受けましたか？	105 (16.0)	528 (80.4)	0 (0.0)	24 (3.7)	118 (15.1)	638 (81.6)	0 (0.0)	26 (3.3)

注：（ ）内は、回答数に対する割合（%）である。

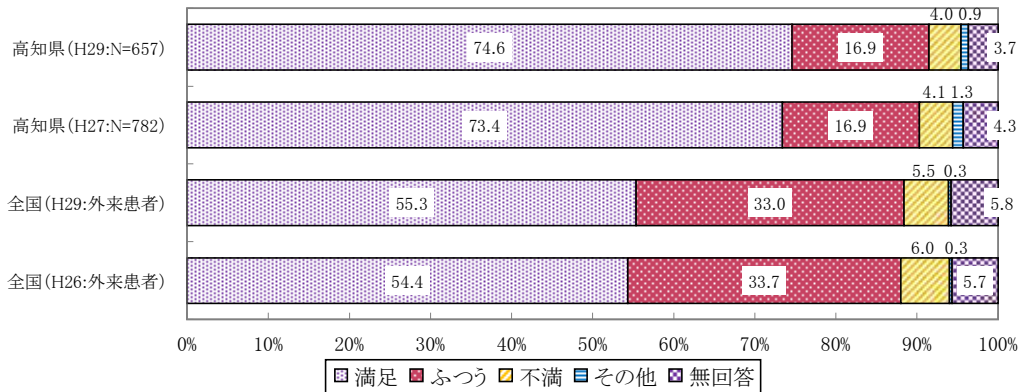
(5) 医師により説明を受け、初めて治療を開始したときの満足度（問6）

ア 受けた診療・治療内容の満足度

初めて治療を開始したときに受けた診療・治療内容について「満足（非常に満足している、やや満足している）」と回答した患者は74.6%、「不満（やや不満である、非常に不満である）」と回答した患者は4.0%となっている。

厚生労働省が行った平成29年受療行動調査（概数）での全外来患者の満足度（55.3%）と比較すると、19.3ポイント上回っている。（図3）

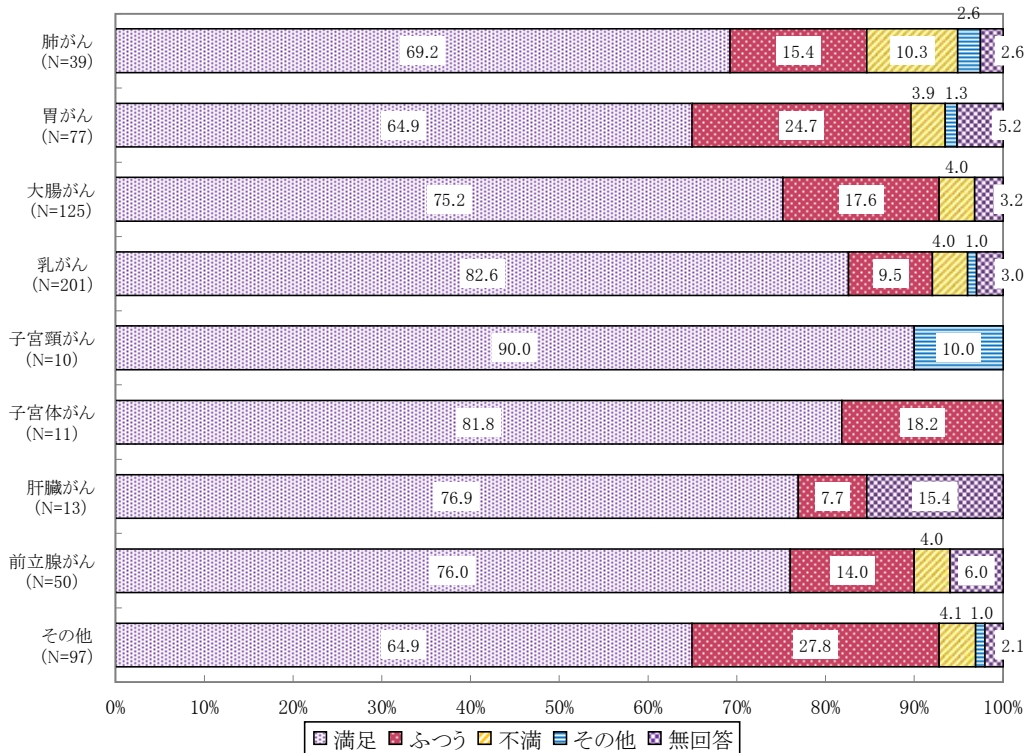
図3 初めて治療を開始したときに受けた診療・治療内容に対する満足度の状況（基本集計）



※全国値は平成29年(概数)、26年受療行動調査結果での、全外来患者の「外来患者の受けている診療・治療内容の満足度」の値

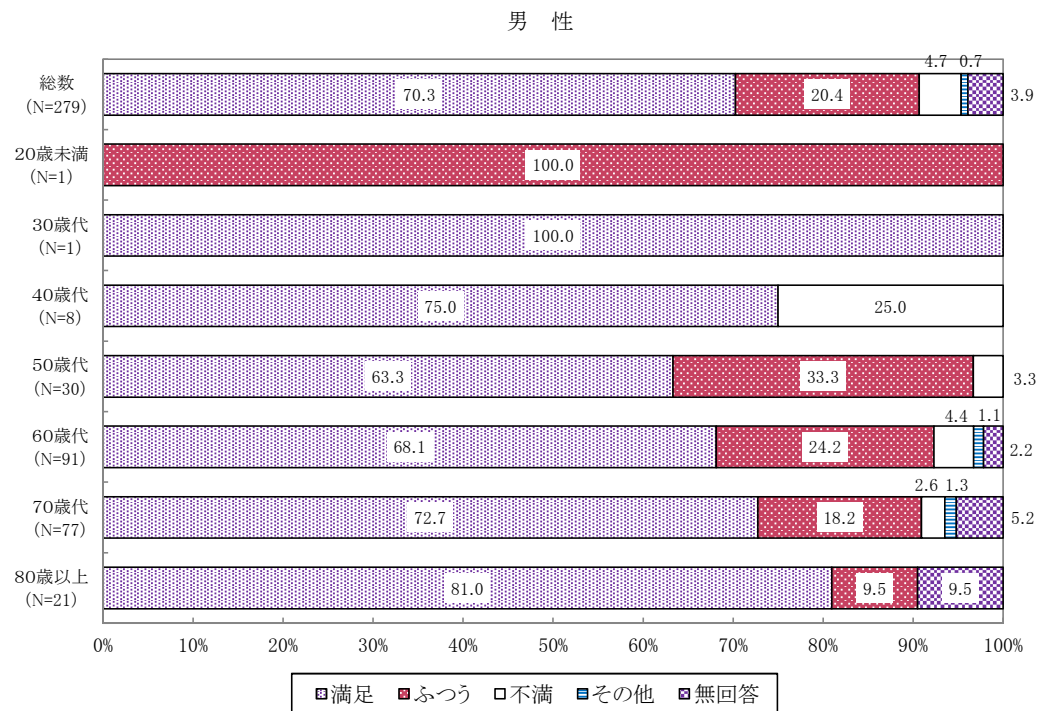
疾病別にみると、「満足」と回答した患者は「子宮頸がん」が最も多く90.0%で、次いで「乳がん」の82.6%、「子宮体がん」の81.8%となっている。（図4）

図4 疾病別の初めて治療を開始したときに受けた診療・治療内容に対する満足度の状況（基本集計）

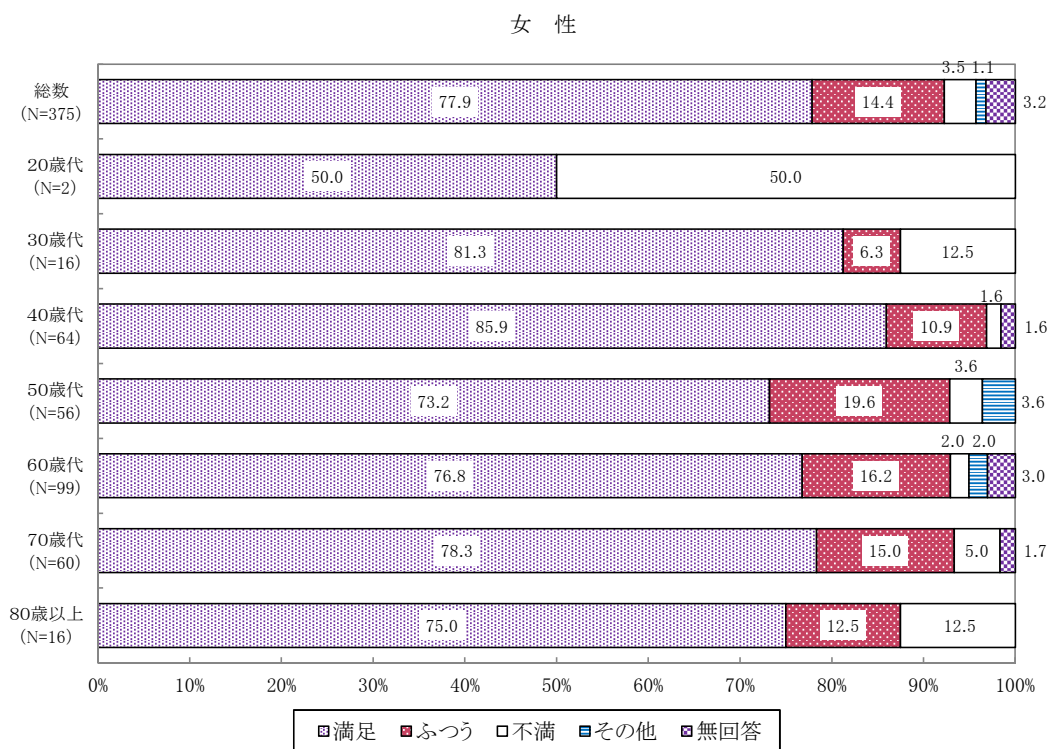


性・年齢別にみると、「満足」と回答した患者は、男性70.3%、女性77.9%となっている。（図5）

図5 性・年齢別の初めて治療を開始したときに受けた診療・治療内容に対する満足度の状況（基本集計）



注：総数には年齢不詳を含む。また20歳代の回答数は0であった。



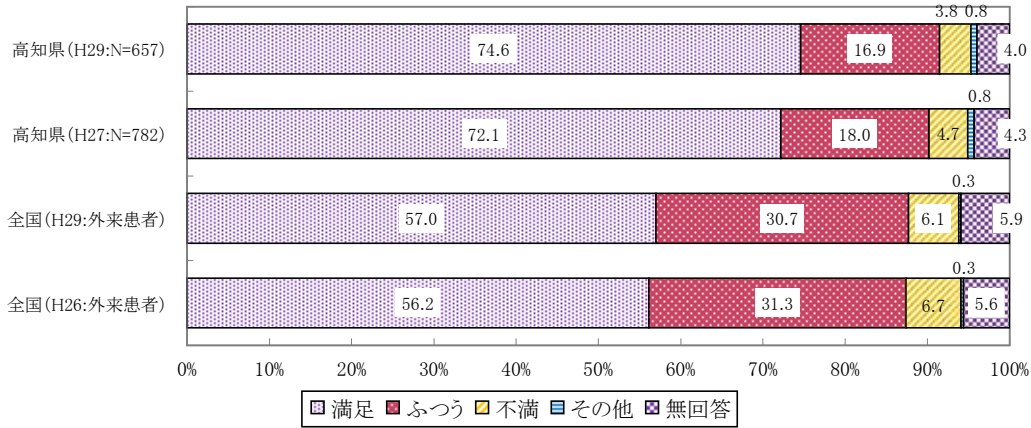
注：総数には年齢不詳を含む。また20歳未満の回答数は0であった。

イ 医師の説明に対する満足度

初めて治療を開始したときの医師の説明について「満足」と回答した患者は74.6%、「不満」と回答した患者は3.8%となっている。

厚生労働省が行った平成29年受療行動調査（概数）での全外来患者の満足度（57.0%）と比較してみると、17.6ポイント上回っている。（図6）

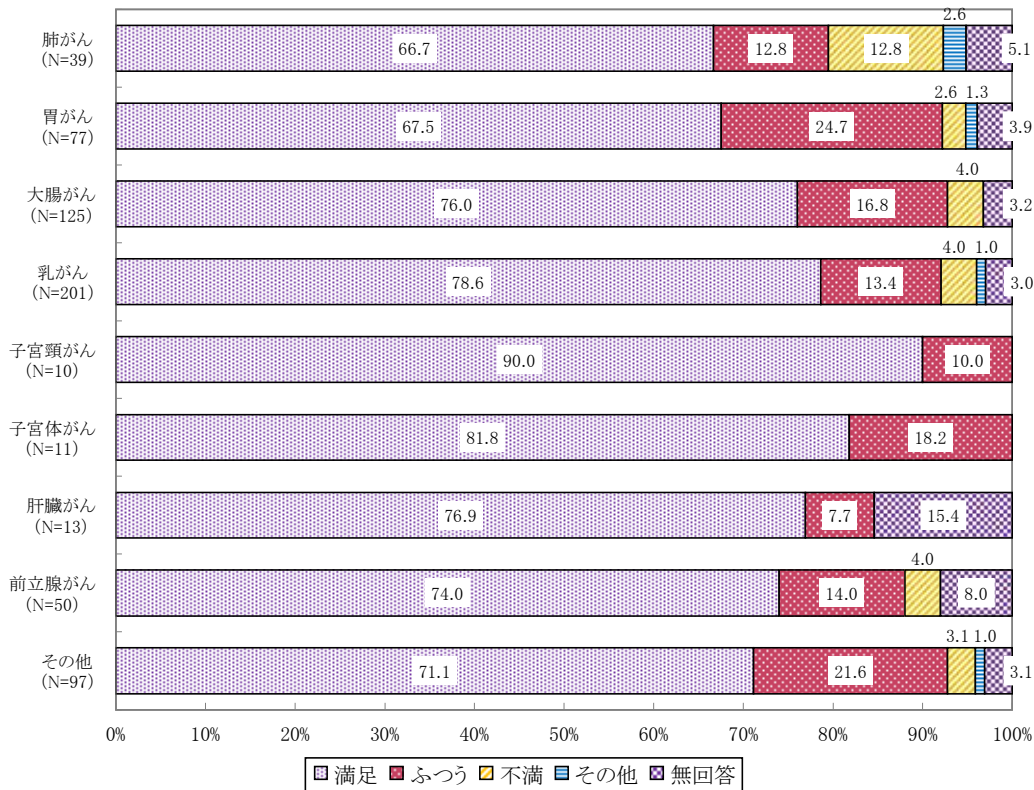
図6 初めて治療を開始したときの医師の説明に対する満足度の状況（基本集計）



※全国値は平成29年(概数)、26年受療行動調査結果での、全外来患者の「外来患者の医師との対話の満足度」の値

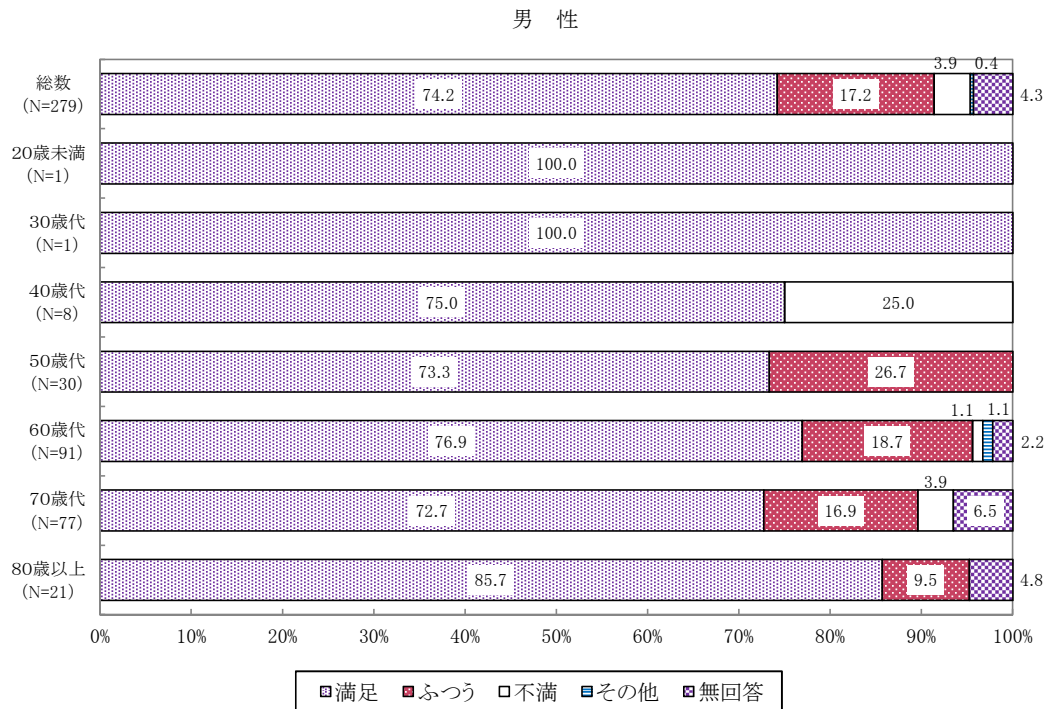
疾病別にみると、「満足」と回答した患者は「子宮頸がん」が最も多く90.0%で、次いで「子宮体がん」の81.8%、「乳がん」の78.6%となっている。（図7）

図7 疾病別の初めて治療を開始したときの医師の説明に対する満足度の状況（基本集計）

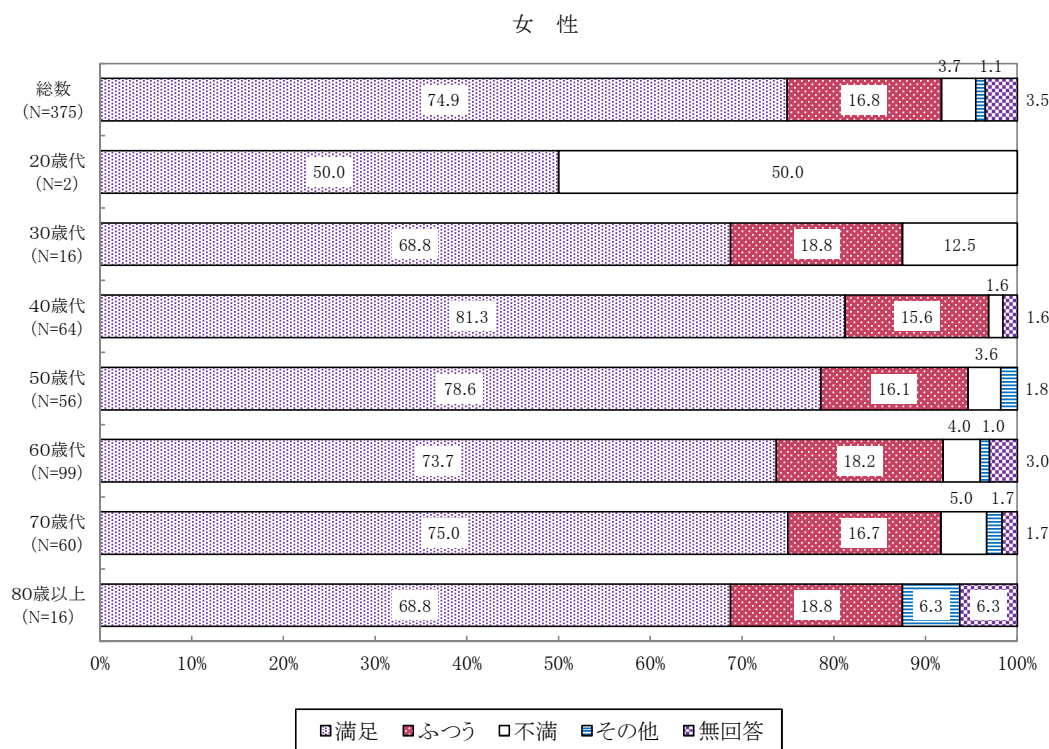


性・年齢別にみると、「満足」と回答した患者は、男性74.2%、女性74.9%となっている。(図8)

図8 性・年齢別の初めて治療を開始したときの医師の説明に対する満足度の状況（基本集計）



注：総数には年齢不詳を含む。また20歳代の回答数は0であった。



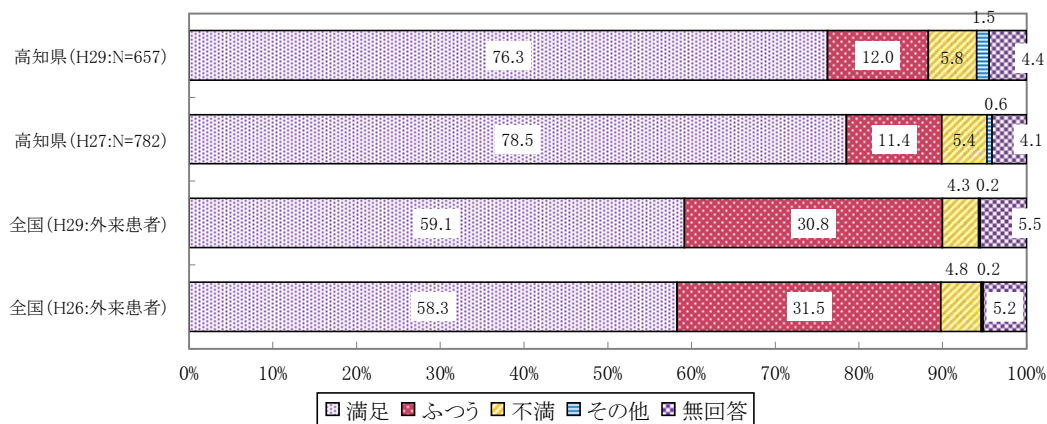
注：総数には年齢不詳を含む。また20歳未満の回答数は0であった。

ウ 病院に対する全体的な満足度

初めて治療を開始したときの病院を全体として「満足」と回答した患者は76.3%、「不満」と回答した患者は5.8%となっている。また、満足度を平成27年度（78.5%）と比較すると、2.2ポイント下回っている。

厚生労働省が行った平成29年受療行動調査（概数）での全外来患者の満足度（59.1%）と比較してみると、17.2ポイント上回っている。（図9）

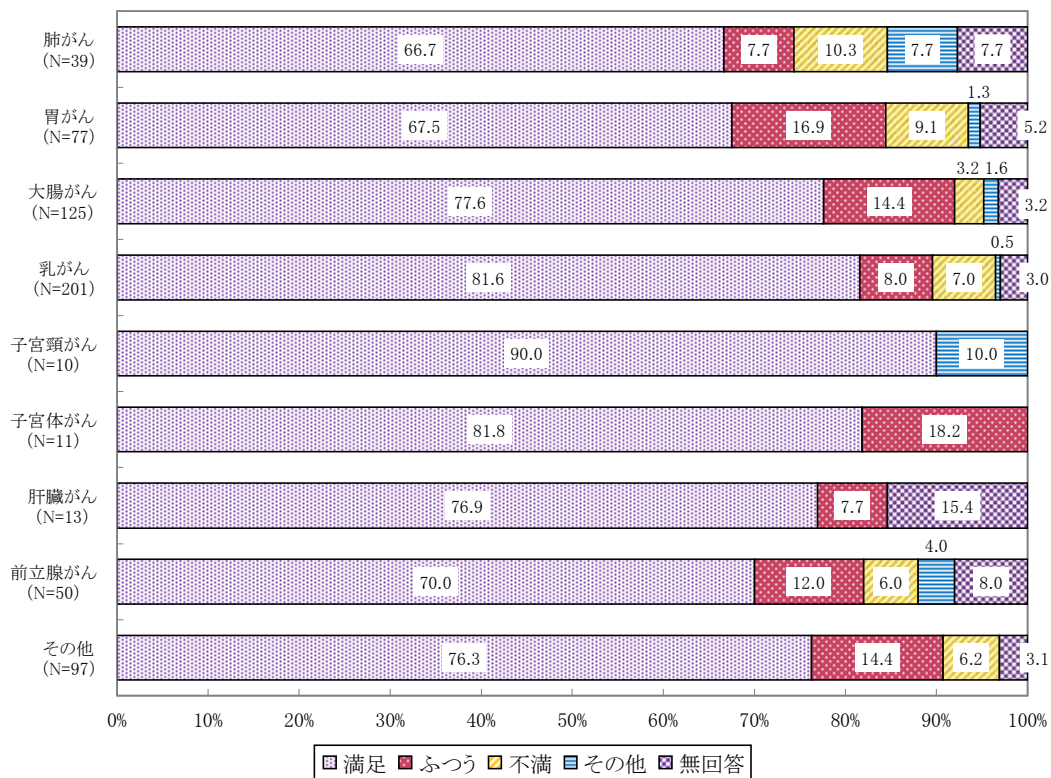
図9 初めて治療を開始したときの病院に対する全体的な満足度の状況（基本集計）



※全国値は平成29年(概数)、26年受療行動調査結果での、全外来患者の「外来患者の病院に対する全体的な満足度」の値

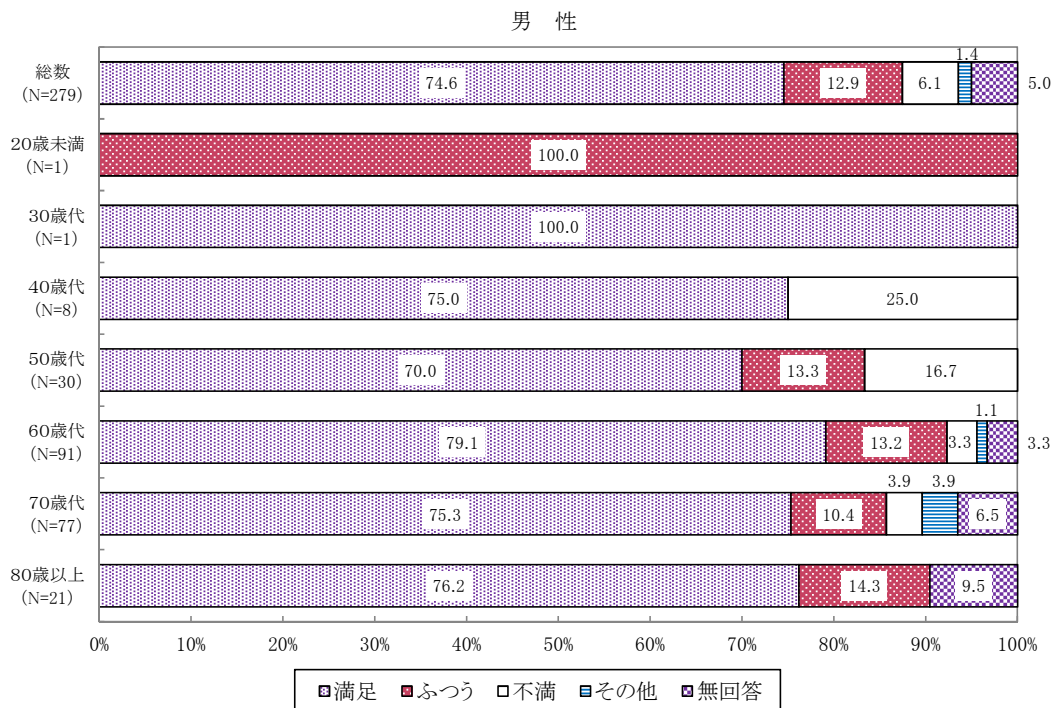
疾病別にみると、「満足」と回答した患者は「子宮頸がん」が最も多く90.0%で、次いで「子宮体がん」の81.8%、「乳がん」の81.6%となっている。（図10）

図10 疾病別の初めて治療を開始したときの病院に対する全体的な満足度の状況（基本集計）

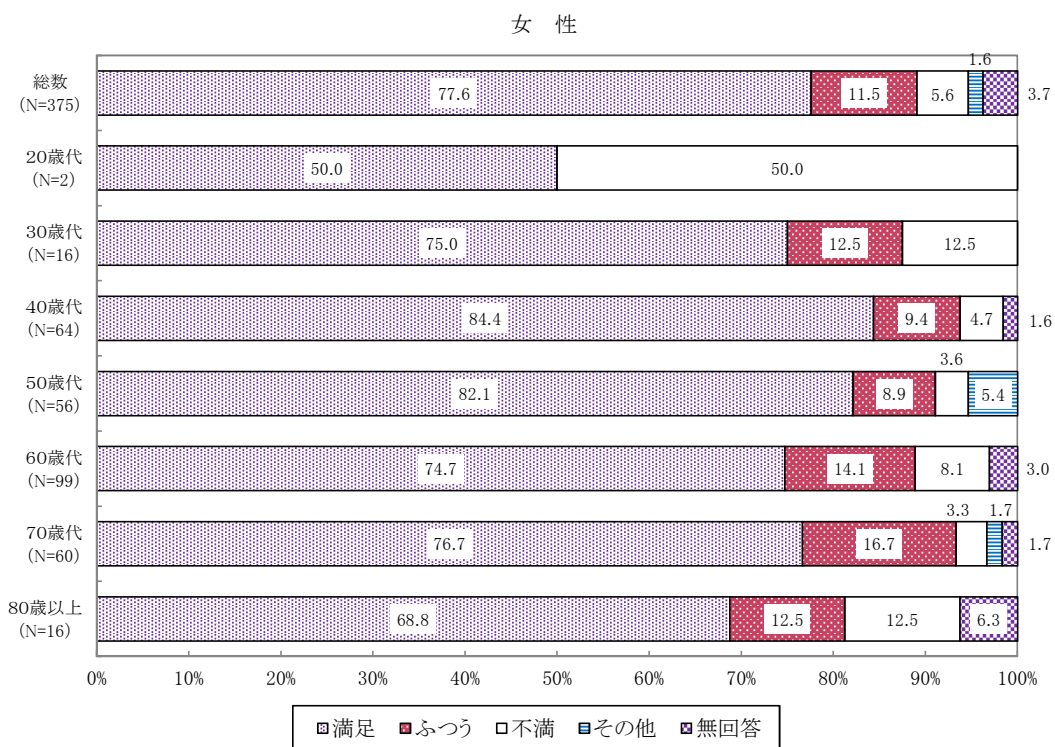


性・年齢別にみると、「満足」と回答した患者は、男性74.6%、女性77.6%となっている。(図11)

図11 性別・年齢別の初めて治療を開始したときの病院に対する全体的な満足度の状況（基本集計）



注：総数には年齢不詳を含む。また20歳代の回答数は0であった。



注：総数には年齢不詳を含む。また20歳未満の回答数は0であった。

2 入院による治療を受けたときのこと（問7、問9、問10関係）

（1）入院治療の状況（問7）

「入院して治療を受けたことがあるか」の間に「はい」と回答した患者は81.3%、「いいえ」と回答した患者は11.9%、無回答は6.8%となっている。

（2）医師などから受けた入院治療に関する説明の状況（問9）

入院して治療を受けたことのある者への「入院治療中に治療状況の説明があったか」の間に「はい」と回答した患者は95.1%となっているが、「看護や介助に関する説明」や「転院・退院に関する説明」があったかの間に「はい」と回答した患者は、それぞれ74.9%と75.3%で、約20ポイント少なくなっている。（表5）

表5 医師などから受けた入院治療に関する説明の状況（基本集計）

	H29年度（回答数：534）				H27年度（回答数：695）			
	はい	いいえ	わからない	無回答	はい	いいえ	わからない	無回答
(1) 入院治療中に、医師から治療状況の説明はありましたか？	508 (95.1)	18 (3.4)	0 (0.0)	8 (1.5)	638 (91.8)	15 (2.2)	0 (0.0)	42 (6.0)
(5) 看護や介助に関する説明はありましたか？	400 (74.9)	121 (22.7)	0 (0.0)	13 (2.4)	505 (72.7)	148 (21.3)	0 (0.0)	42 (6.0)
(6) 転院や退院に関する説明は十分にありましたか？	402 (75.3)	110 (20.6)	0 (0.0)	22 (4.1)	520 (74.8)	136 (19.6)	0 (0.0)	39 (5.6)

注：（ ）内は、回答数に対する割合（%）である。

（3）入院中の不安などに関する状況（問9）

「入院治療に関する不安があったか」の間に「はい」と回答した患者は46.8%、「いいえ」と回答した患者は50.7%となっている。

「医師からの説明が丁寧にされたか」の間に「はい」と回答した患者は89.5%で、初めて治療を開始したとき（89.3%）と同程度となっている。「説明にかかる時間はちょうど良いと思ったか」の間については87.1%が「はい」と回答しており、初めて治療を開始したとき（85.5%）と比較すると、1.6ポイント上回っている。（参照 p.5 表2）

「医師や看護師の連携は出来ているか」の間に「はい」と回答した患者は87.8%となっている。

「入院中に緩和ケアチームに関する説明を受けたか」の間に「はい」と回答した患者は34.1%となっており、実際に緩和ケアチームの支援を受けた患者は6.2%となっている。（表6）

表6 入院中の不安などに関する状況（基本集計）

	H29年度（回答数：534）				H27年度（回答数：695）			
	はい	いいえ	わからない	無回答	はい	いいえ	わからない	無回答
(2) 入院治療に関する不安はありましたか？	250 (46.8)	271 (50.7)	0 (0.0)	13 (2.4)	332 (47.8)	316 (45.5)	0 (0.0)	47 (6.8)
(3) 医師からの説明は、丁寧に詳しくされましたか？	478 (89.5)	43 (8.1)	0 (0.0)	13 (2.4)	603 (86.8)	45 (6.5)	0 (0.0)	47 (6.8)
(4) 医師の説明にかかる時間はちょうど良いと思いましたか？	465 (87.1)	53 (9.9)	0 (0.0)	16 (3.0)	590 (84.9)	76 (10.9)	0 (0.0)	29 (4.2)
(7) 医師や看護師の連携は出来ていると思いましたか？	469 (87.8)	50 (9.4)	0 (0.0)	15 (2.8)	596 (85.8)	67 (9.6)	0 (0.0)	32 (4.6)
(8) 医療機関から、体や心の痛みを和らげるための支援を行う、緩和ケアチームがあることの説明がありましたか？	182 (34.1)	329 (61.6)	0 (0.0)	23 (4.3)	200 (28.8)	450 (64.7)	0 (0.0)	45 (6.5)
(9) 緩和ケアチームの支援を利用しましたか？	33 (6.2)	485 (90.8)	0 (0.0)	16 (3.0)	47 (6.8)	615 (88.5)	0 (0.0)	33 (4.7)

注：（ ）内は、回答数に対する割合（%）である。

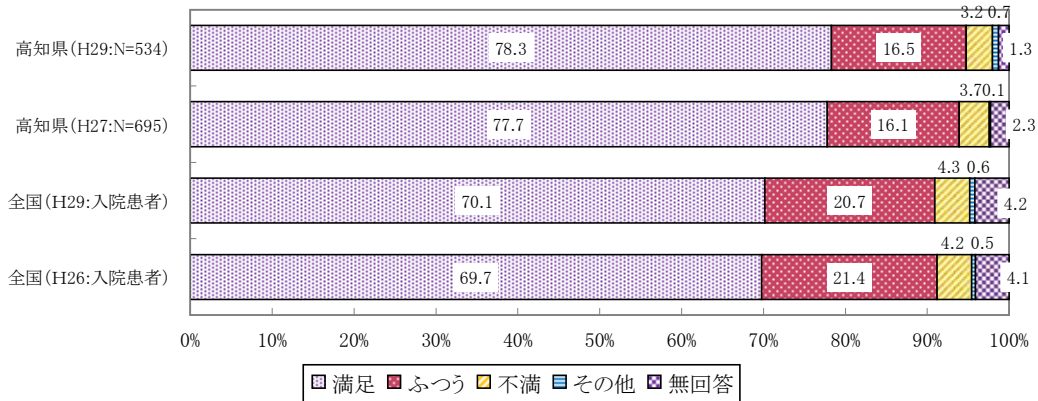
(4) 入院治療の満足度 (問10)

ア 受けた診療・治療内容の満足度

入院をしたときに受けた診療・治療内容について「満足」と回答した患者は78.3%、「不満」と回答した患者は3.2%となっている。

厚生労働省が行った平成29年受療行動調査(概数)での全入院患者の満足度(70.1%)と比較すると、8.2ポイント上回っている。(図12)

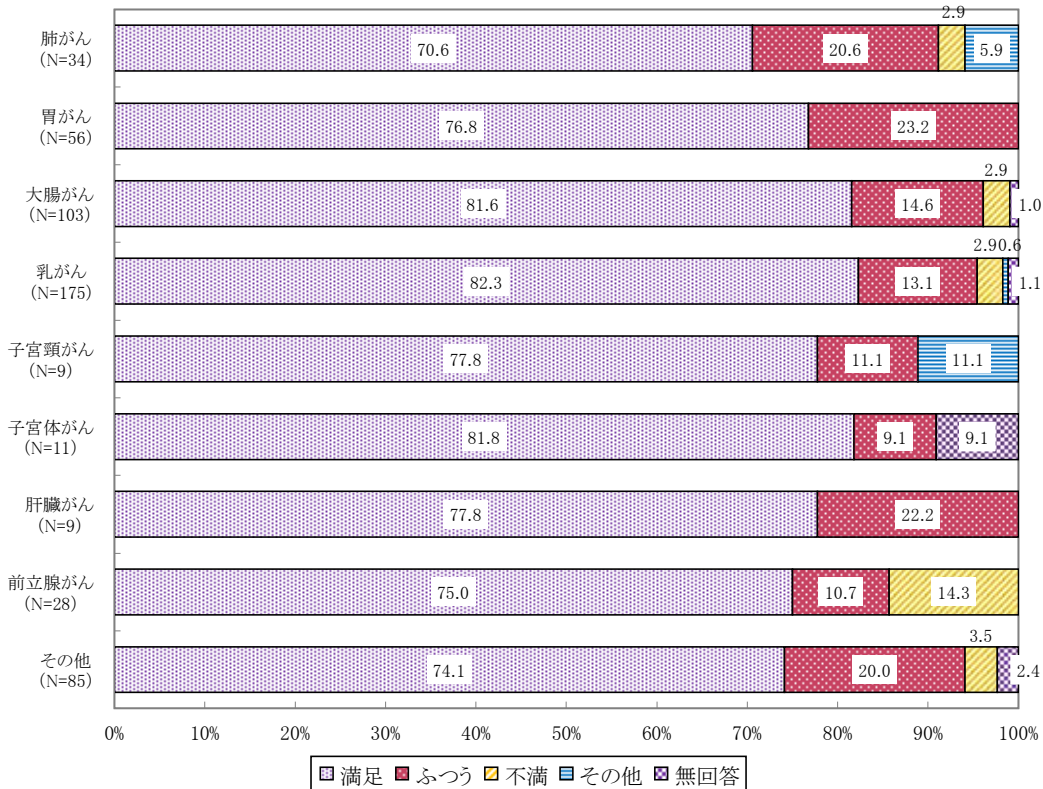
図12 入院をしたときに受けた診療・治療内容に対する満足度の状況(基本集計)



※全国値は平成29年(概数)、26年受療行動調査結果での、全入院患者の「入院患者の受けている診療・治療内容の満足度」の値

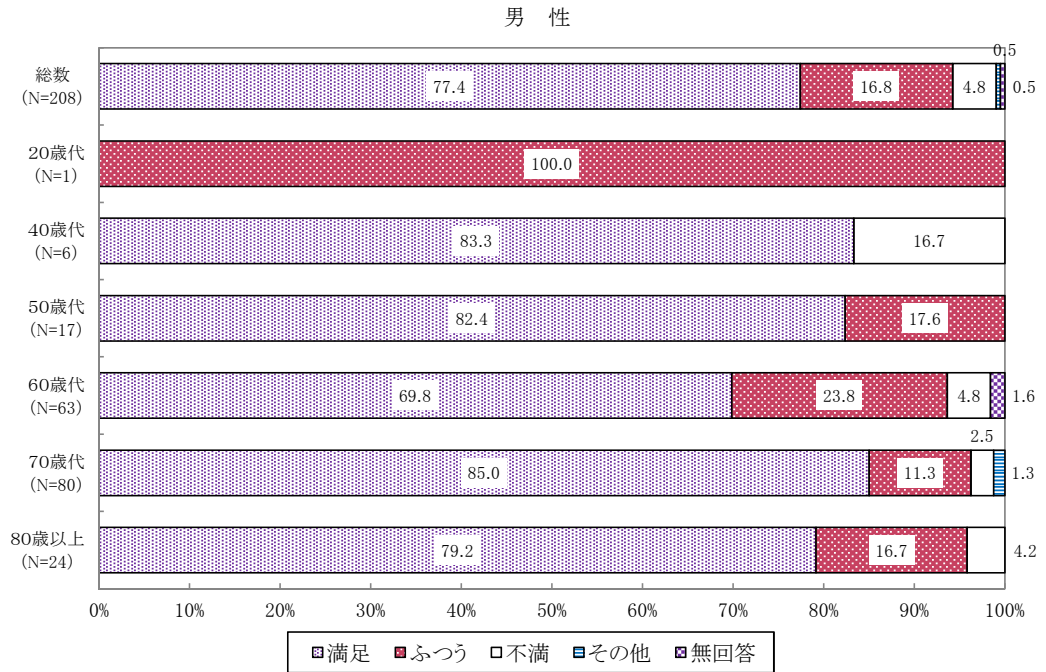
疾病別にみると、「満足」と回答した患者は「乳がん」が最も多く82.3%で、次いで「子宮体がん」の81.8%、「大腸がん」の81.6%となっている。(図13)

図13 疾病別の入院をしたときに受けた診療・治療内容に対する満足度の状況(基本集計)

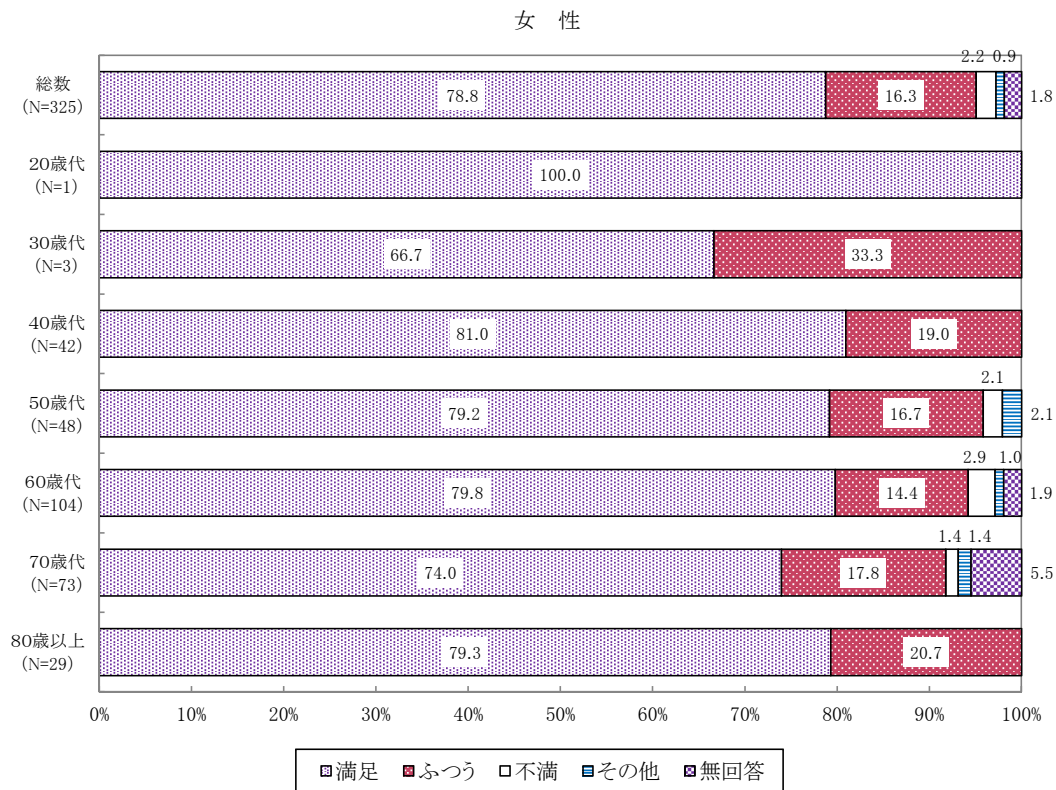


性・年齢別にみると、「満足」と回答した患者は、男性77.4%、女性78.8%となっている。「不満」と回答した患者は男性が40歳代、女性が60歳代で最も多くなっている。
(図14)

図14 性・年齢別の入院をしたときに受けた診療・治療内容に対する満足度の状況（基本集計）



注：総数には年齢不詳を含む。また20歳未満及び30歳代の回答数は0であった。



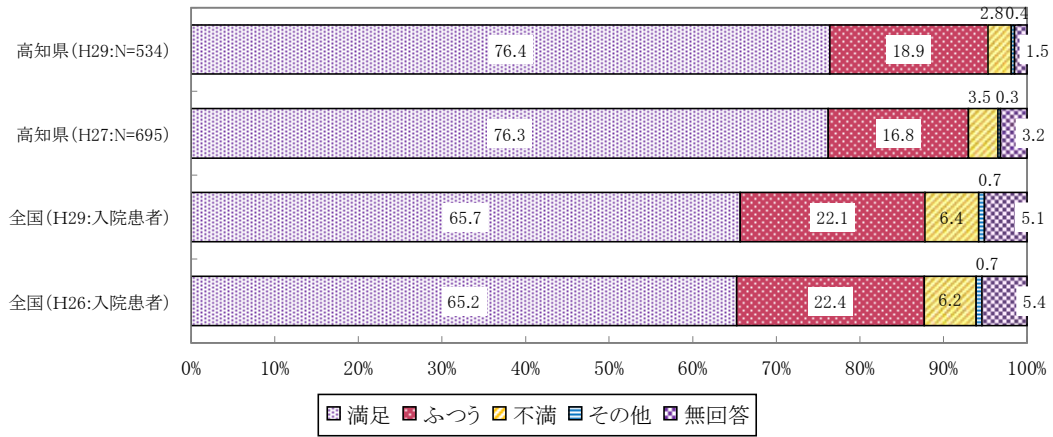
注：総数には年齢不詳を含む。また20歳未満の回答数は0であった。

イ 入院時の対応に対する満足度

入院治療をしたときの対応について「満足」と回答した患者は76.4%、「不満」と回答した患者は2.8%となっている。

厚生労働省が行った平成29年受療行動調査（概数）での全入院患者の満足度（65.7%）と比較してみると、10.7ポイント上回っている。（図15）

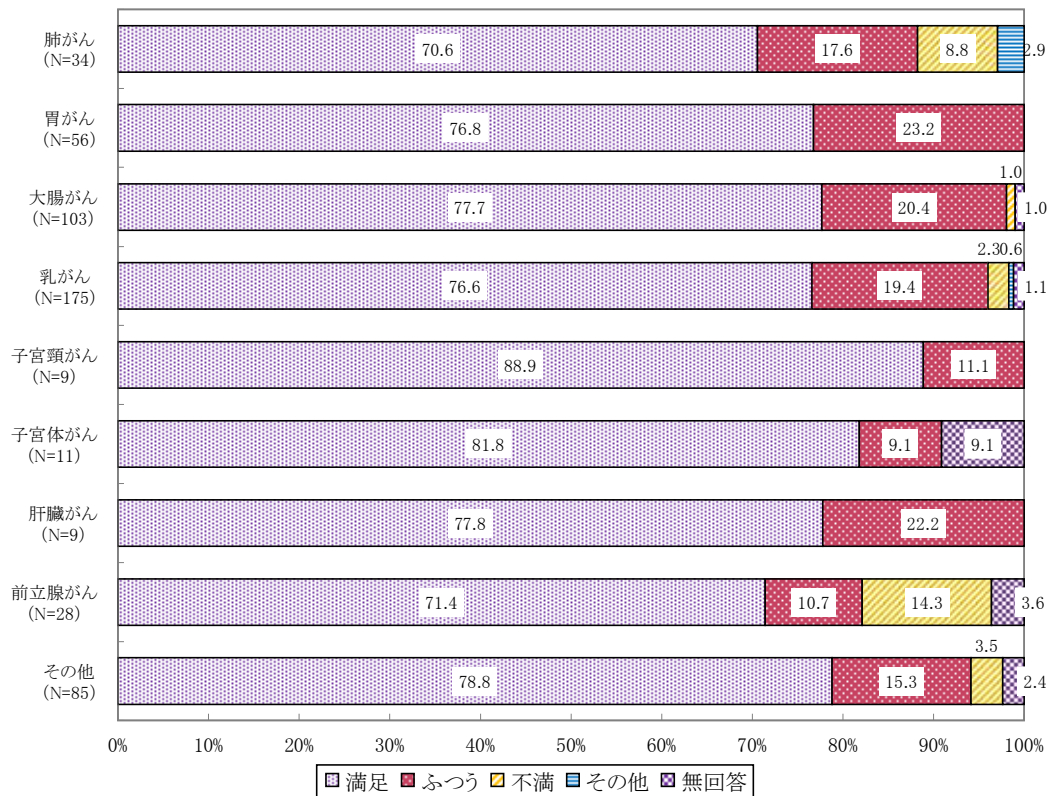
図15 入院治療をしたときの対応に対する満足度の状況（基本集計）



※全国値は平成29年(概数)、26年受療行動調査結果での、全入院患者の「入院患者の医師との対話の満足度」の値

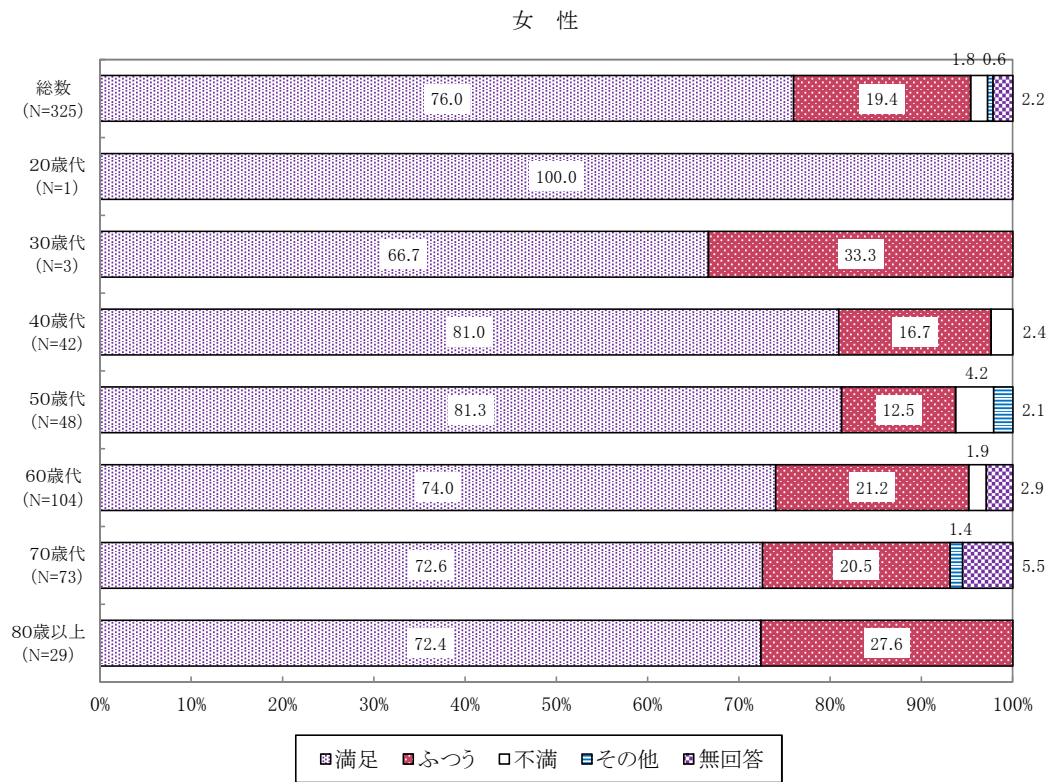
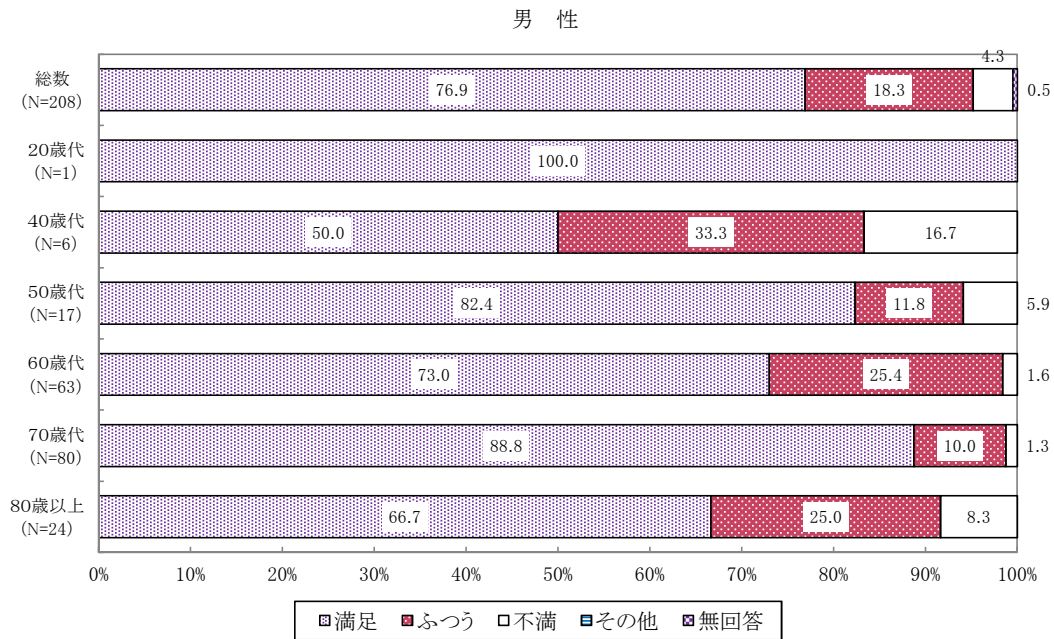
疾病別にみると、「満足」と回答した患者は「子宮頸がん」が最も多く88.9%で、次いで「子宮体がん」の81.8%、「肝臓がん」の77.8%となっている。（図16）

図16 疾病別の入院治療をしたときの対応に対する満足度の状況（基本集計）



性・年齢別にみると、「満足」と回答した患者は、男性76.9%、女性76.0%となっている。(図17)

図17 性・年齢別の入院治療をしたときの対応に対する満足度の状況（基本集計）

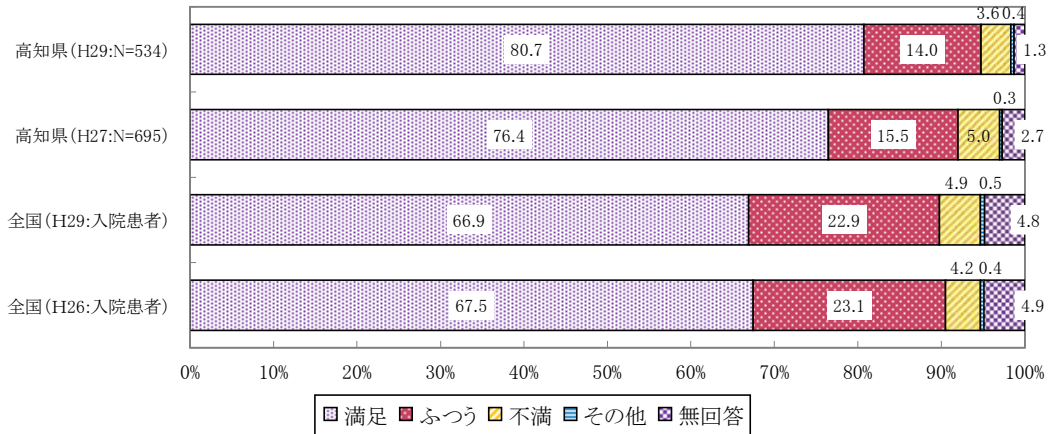


ウ 病院に対する全体的な満足度

入院治療をしたときの病院を全体として「満足」と回答した患者は80.7%、「不満」と回答した患者は3.6%となっている。また、満足度を平成27年度（76.4%）と比較すると、4.3ポイント上回っている。

厚生労働省が行った平成29年受療行動調査（概数）での全入院患者の満足度（66.9%）と比較してみると、13.8ポイント上回っている。（図18）

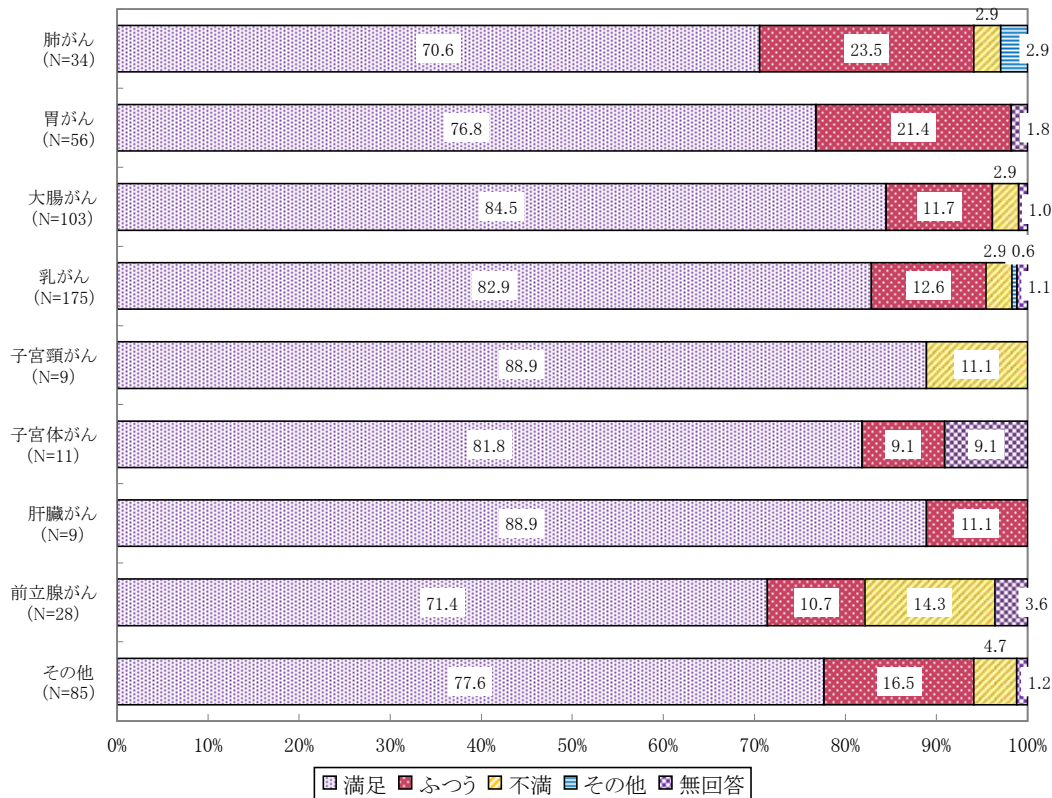
図18 入院治療をしたときの病院に対する全体的な満足度の状況（基本集計）



※全国値は平成29年（概数）、26年受療行動調査結果での、全入院患者の「入院患者の病院に対する全体的な満足度」の値

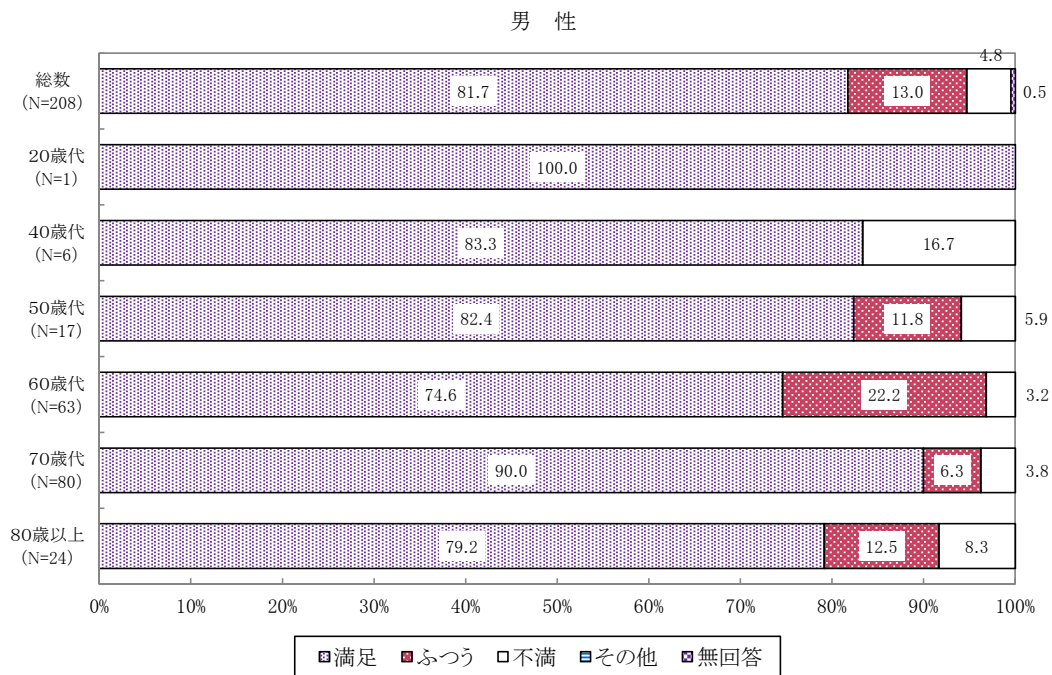
疾病別にみると、「満足」と回答した患者は「子宮頸がん」と「肝臓がん」が最も多く88.9%で、次いで「大腸がん」の84.5%、「乳がん」の82.9%となっている。（図19）

図19 疾病別の入院治療をしたときの病院に対する全体的な満足度の状況（基本集計）

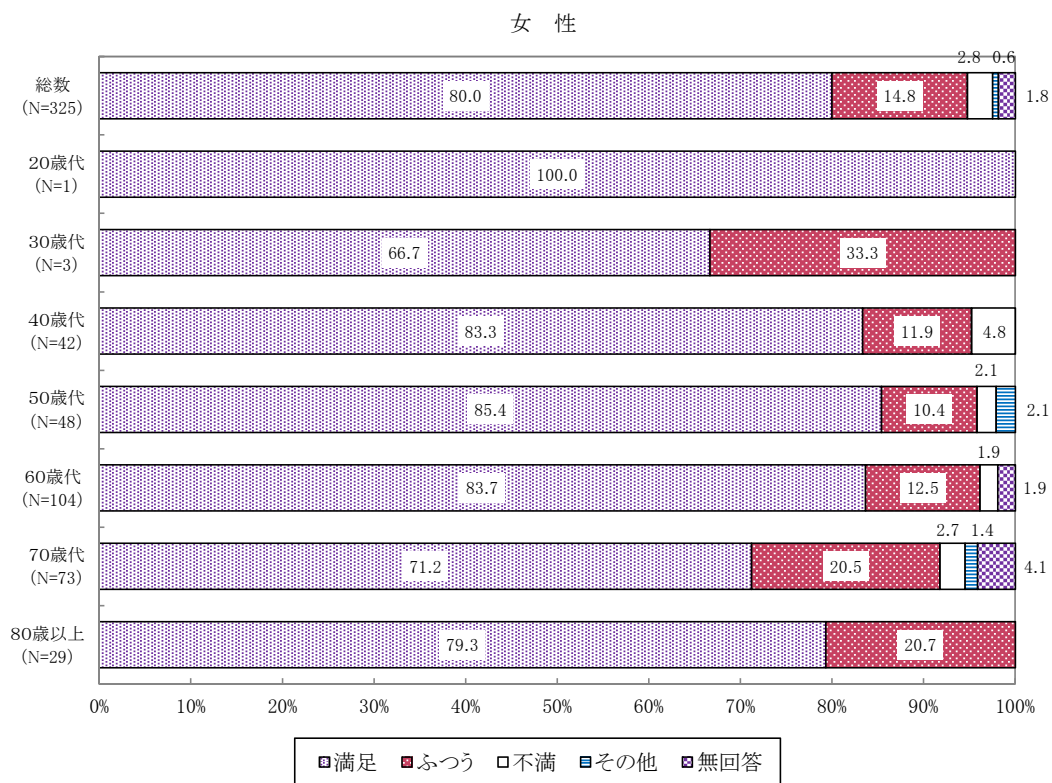


性・年齢別にみると、「満足」と回答した患者は、男性81.7%、女性80.0%となっている。「不満」と回答した患者は男女ともに40歳代で最も多くなっている。（図20）

図20 性・年齢別の入院治療をしたときの病院に対する全体的な満足度の状況（基本集計）



注：総数には年齢不詳を含む。また20歳未満及び30歳代の回答数は0であった。



注：総数には年齢不詳を含む。また20歳未満の回答数は0であった。

3 医師に対する患者からの質問に関すること（問11～問15関係）

（1）医師への患者からの質問の状況（問11）

「医師に対して診療に関する質問や相談をしたことがあるか」の問に「ある」と回答した患者は69.1%、「なし」と回答した患者は24.0%、無回答は6.8%となっている。

（2）医師に対して行った質問や相談の時期の状況（複数回答）（問12）

医師に対して質問や相談を行った時期は「初診、治療開始時」が最も多く63.9%となっている。（表7）

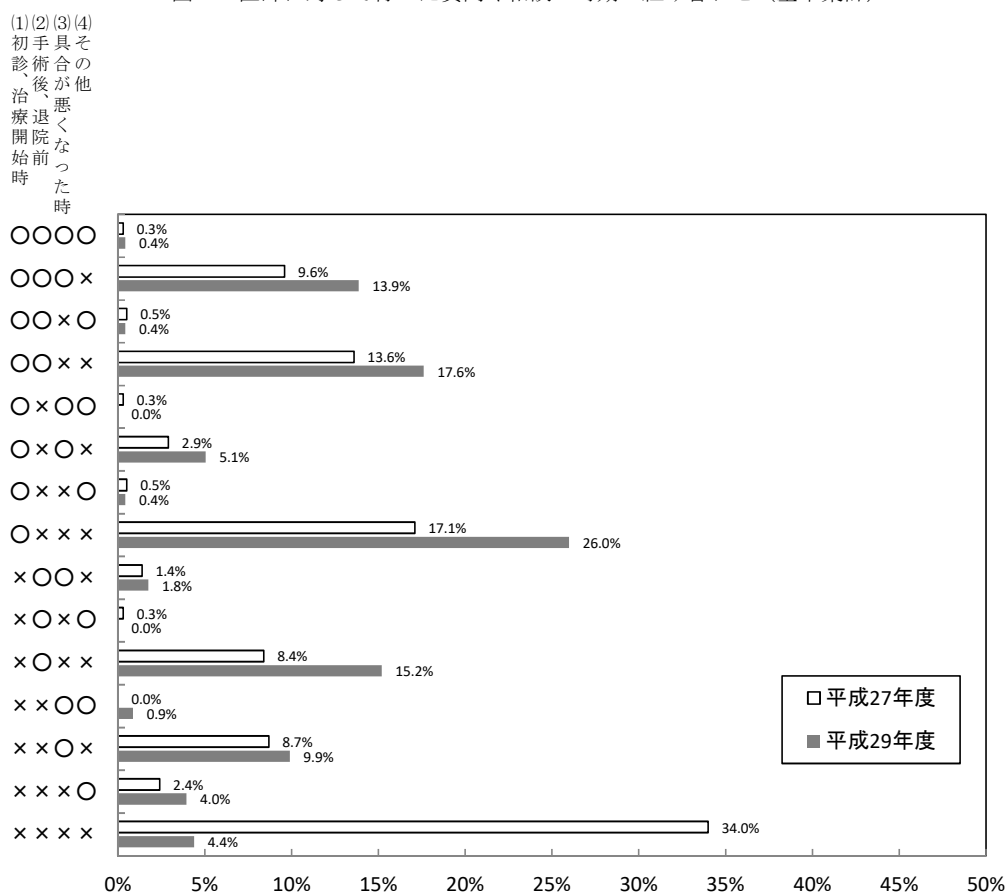
時期の組み合わせを見ると、「初診、治療開始時」のみの患者が26.0%と最も多く、次いで「初診、治療開始時」と「手術後、退院前」の2種類を選択している患者となっている。（図21）

表7 医師に対して行った質問や相談の時期の状況（複数回答）（基本集計）

	H29		H27	
	(対象数:454)		(対象数:558)	
	回答		回答	
(1) 初診、治療開始時	290	(63.9)	350	(62.7)
(2) 手術後、退院前	224	(49.3)	266	(47.7)
(3) 具合が悪くなった時	145	(31.9)	181	(32.4)
(4) その他	28	(6.2)	33	(5.9)
無回答	20	(4.4)	42	(7.5)

注：（ ）内は、相談したことのある者（対象数）に対する割合(%)である。

図21 医師に対して行った質問や相談の時期の組み合わせ（基本集計）



(3) 医師に対して行った質問や相談の内容の状況（複数回答）（問13）

医師に対して質問や相談を行った内容は「治療の方法や治療期間に関するもの」が最も多く74.4%で、次いで「病名、病状に関するもの」の71.6%となっている。（表8）

表8 医師に対して行った質問や相談の内容の状況（複数回答）（基本集計）

	H29 (対象数:454)		H27 (対象数:558)	
	回答	回答	回答	回答
(1) 病名、病状に関するもの	325	(71.6)	372	(66.7)
(2) 治療の方法や治療期間に関するもの	338	(74.4)	415	(74.4)
(3) 病気についての今後の見通しについて	299	(65.9)	359	(64.3)
(4) 治療の効果や副作用について	310	(68.3)	363	(65.1)
(5) 各種検査の目的や検査後の結果について	217	(47.8)	247	(44.3)
(6) 転院や退院時の他院への紹介に関する事	46	(10.1)	56	(10.0)
(7) セカンドオピニオンに関する事	37	(8.1)	38	(6.8)
(8) 精神心理的な苦痛に対する心のケアを含む緩和ケアに関する事	32	(7.0)	28	(5.0)
(9) その他	54	(11.9)	75	(13.4)
無回答	15	(3.3)	36	(6.5)

注：（）内は、相談したことのある者（対象数）に対する割合（%）である。

(4) 質問や相談を行った時の医師の対応への感想の状況（問14）

医師に質問や相談を行った時の対応について、各問に「はい」と回答した患者は、「質問や相談はしやすかったか」の間には89.9%、「時間をかけて答えてくれたか」の間には83.0%、「回答は適切なものだったか」の間には82.4%となっている。（表9）

表9 質問や相談を行った時の医師の対応への感想の状況（基本集計）

	H29年度（回答数：454）				H27年度（回答数：558）			
	はい	いいえ	わからない	無回答	はい	いいえ	わからない	無回答
(1) 質問や相談はしやすかったですか？	408 (89.9)	21 (4.6)	0 (0.0)	25 (5.5)	477 (85.5)	37 (6.6)	0 (0.0)	44 (7.9)
(2) 質問や相談には時間をかけて答えてくれましたか？	377 (83.0)	38 (8.4)	0 (0.0)	39 (8.6)	436 (78.1)	60 (10.8)	0 (0.0)	62 (11.1)
(3) 質問や相談への回答は適切なものでしたか？	374 (82.4)	31 (6.8)	0 (0.0)	49 (10.8)	458 (82.1)	39 (7.0)	0 (0.0)	61 (10.9)

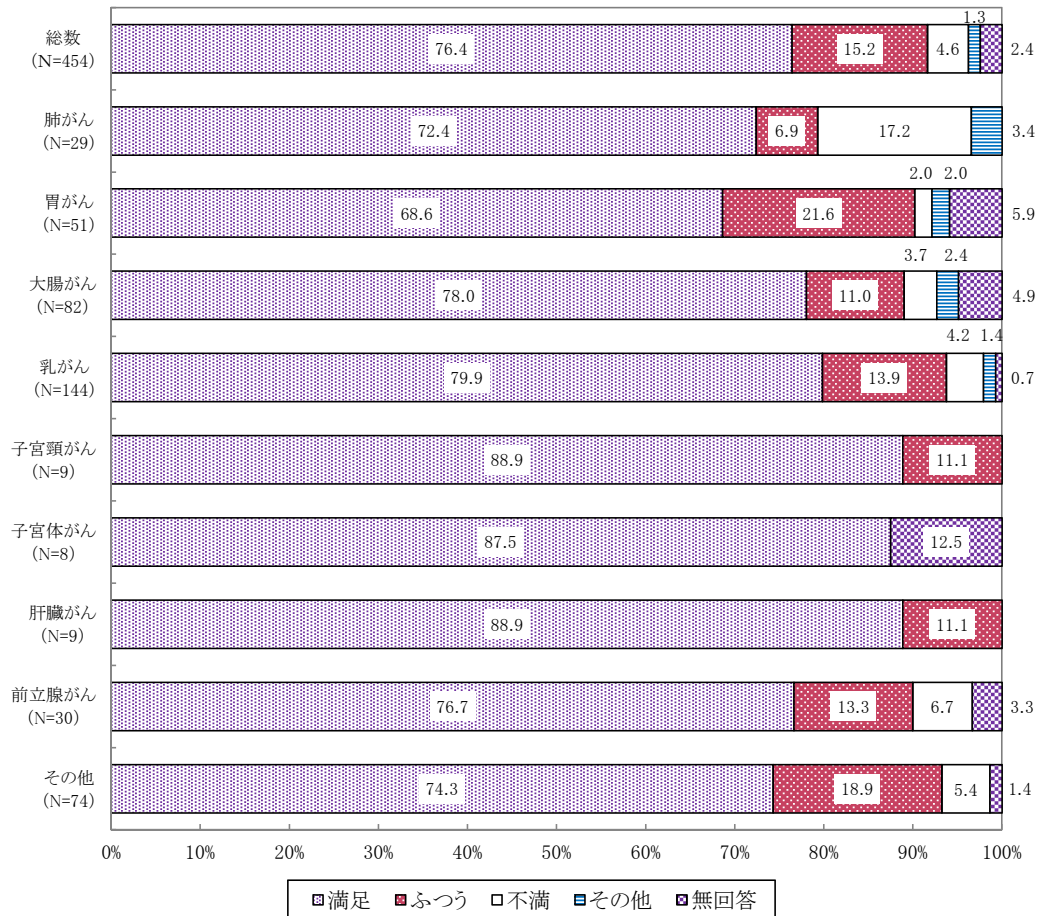
注：（）内は、回答数に対する割合（%）である。

(5) 質問や相談を行った時の医師の対応への満足度 (問15)

質問や相談を行った時の医師の対応について「満足」と回答した患者は76.4%、「不満」と回答した患者は4.6%となっている。

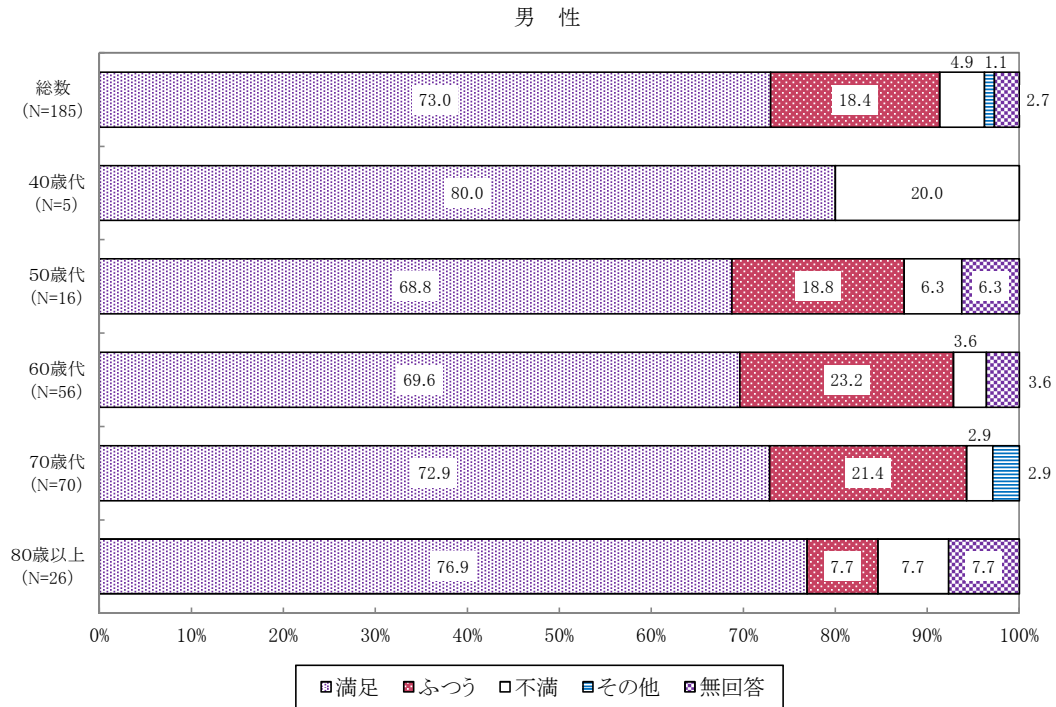
疾病別にみると、「満足」と回答した患者は「子宮頸がん」と「肝臓がん」が最も多く88.9%で、次いで「子宮体がん」の87.5%、「乳がん」の79.9%となっている。(図22)

図22 疾病別の質問や相談を行った時の医師の対応への満足度の状況 (基本集計)

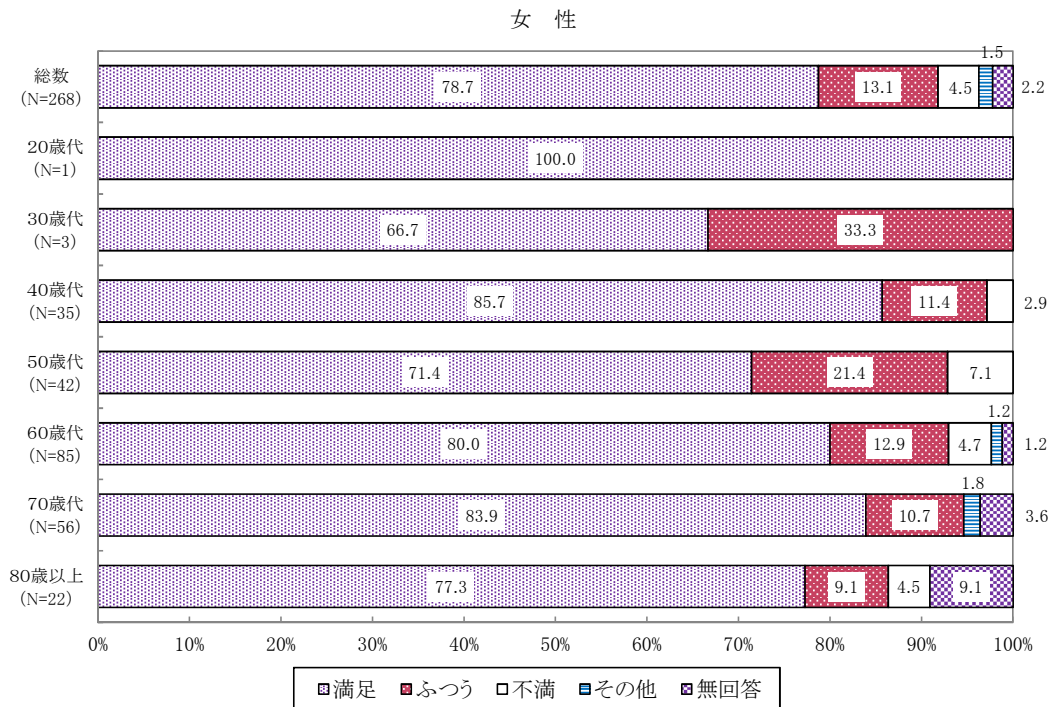


性・年齢別にみると、「満足」と回答した患者は、男性73.0%、女性78.7%となっている。「不満」と回答した患者は、男性が40歳代、女性が50歳代で最も多くなっている。(図23)

図23 性・年齢別の質問や相談を行った時の医師の対応への満足度の状況（基本集計）



注：総数には年齢不詳を含む。また40歳未満の回答数は0であった。



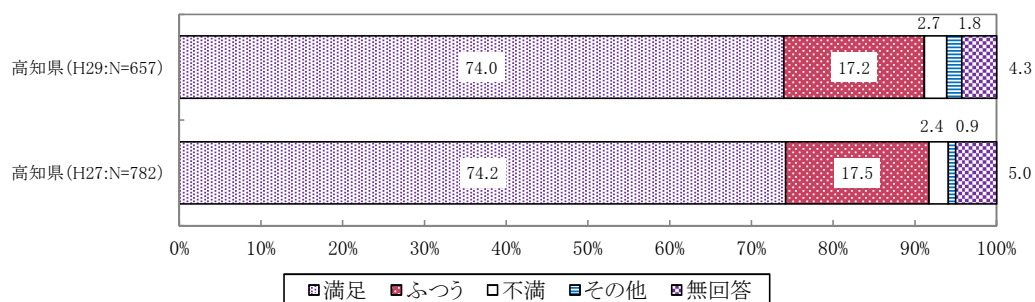
注：総数には年齢不詳を含む。また20歳未満の回答数は0であった。

4 今日診察を受けた病院に対する満足度（問16関係）

ア 受けた診療・治療内容の満足度

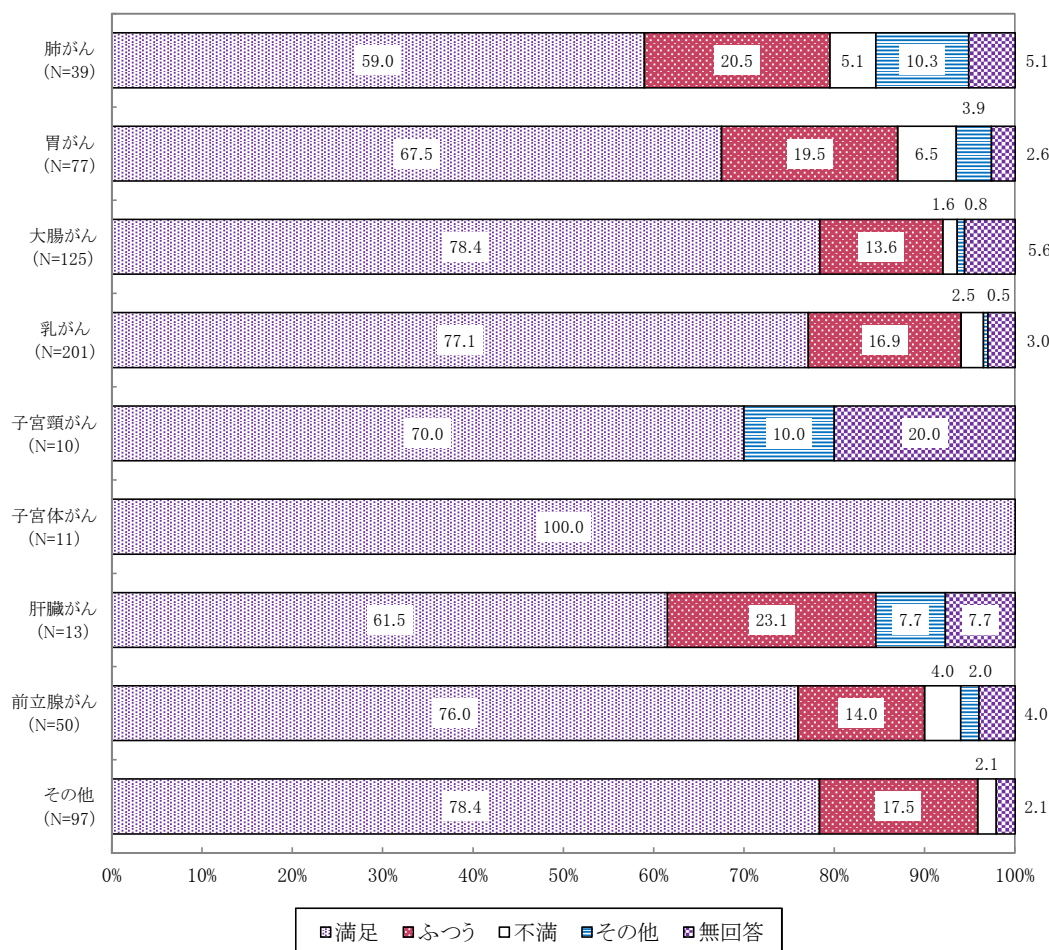
今日診察を受けた病院での診療・治療内容について「満足」と回答した患者は74.0%、「不満」と回答した患者は2.7%となっている。また、満足度を平成27年度と比較しても、同程度となっている。（図24）

図24 今日診察を受けた病院での診療・治療内容に対する満足度の状況（基本集計）



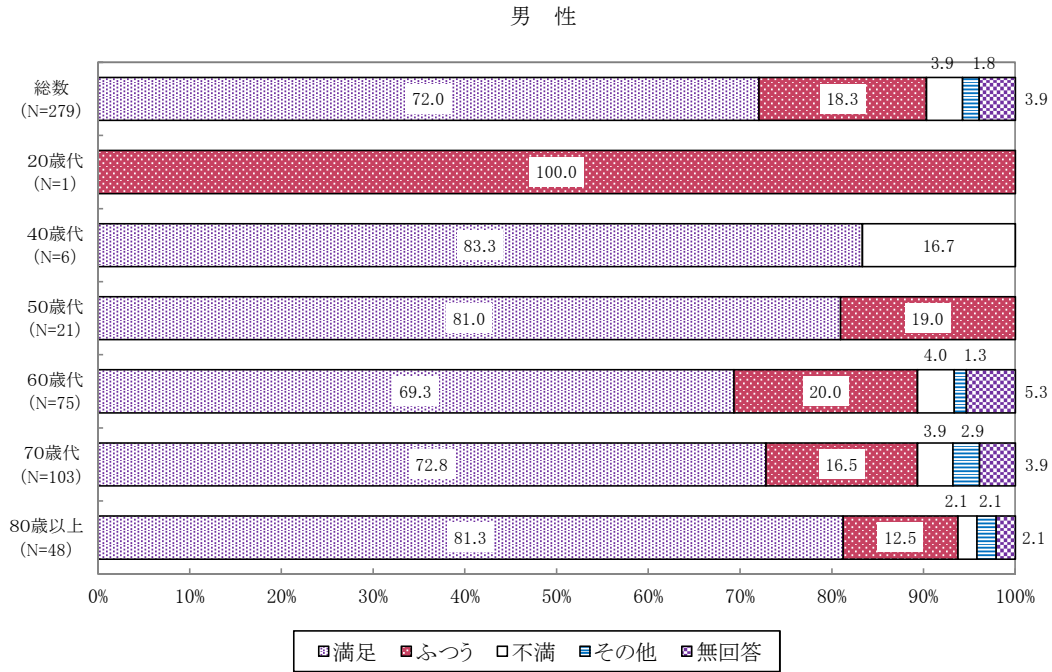
疾病別にみると、「満足」と回答した患者は「子宮体がん」が最も多く100.0%で、次いで「大腸がん」の78.4%、「乳がん」の77.1%となっている。（図25）

図25 疾病別の今日診察を受けた病院での診療・治療内容に対する満足度の状況（基本集計）

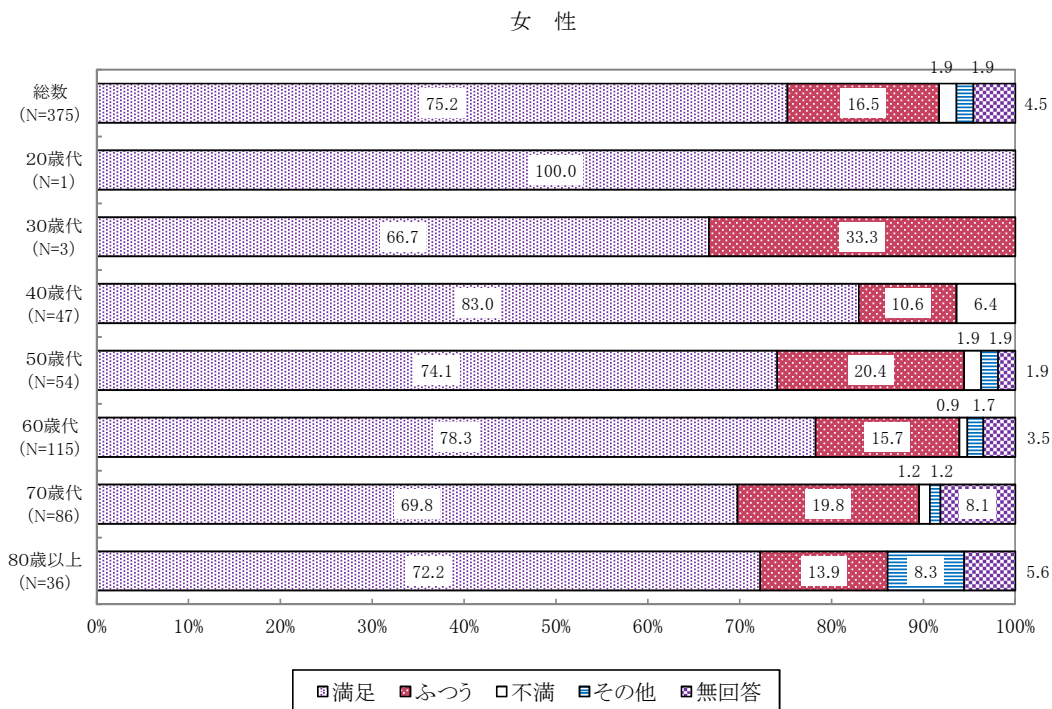


性・年齢別にみると、「満足」と回答した患者は、男性72.0%、女性75.2%となっている。「不満」と回答した患者は、男性・女性ともに40歳代で最も多くなっている。（図26）

図26 性・年齢別の今日診察を受けた病院での診療・治療内容に対する満足度の状況（基本集計）



注：総数には年齢不詳を含む。また20歳未満及び30歳代の回答数は0であった。



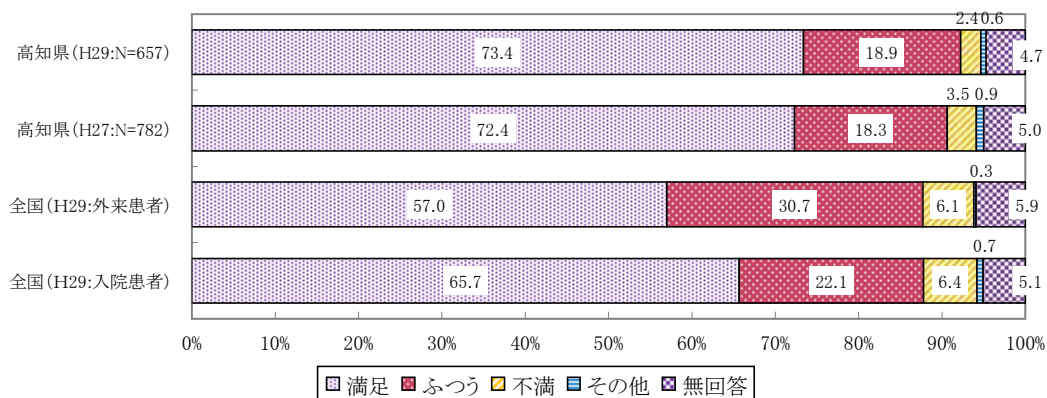
注：総数には年齢不詳を含む。また20歳未満の回答数は0であった。

イ 医師との対話に対する満足度

今日診察を受けた病院での医師との対話について「満足」と回答した患者は73.4%、「不満」と回答した患者は2.4%となっている。

厚生労働省が行った平成29年受療行動調査（概数）での全外来患者の満足度（57.0%）と比較すると、16.4ポイント、全入院患者の満足度（65.7%）と比較すると7.7ポイント上回っている。（図27）

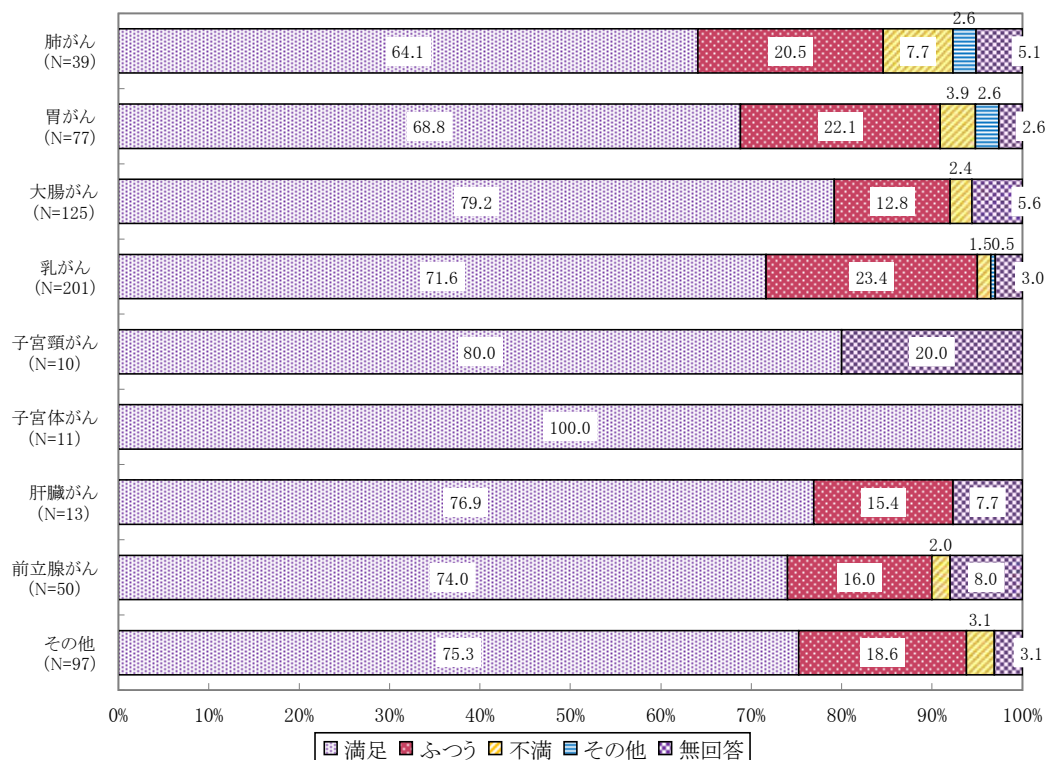
図27 今日診察を受けた病院での医師との対話に対する満足度の状況（基本集計）



※全国値は平成29年受療行動調査結果(概数)での、全外来入院患者の「医師との対話の満足度」の値

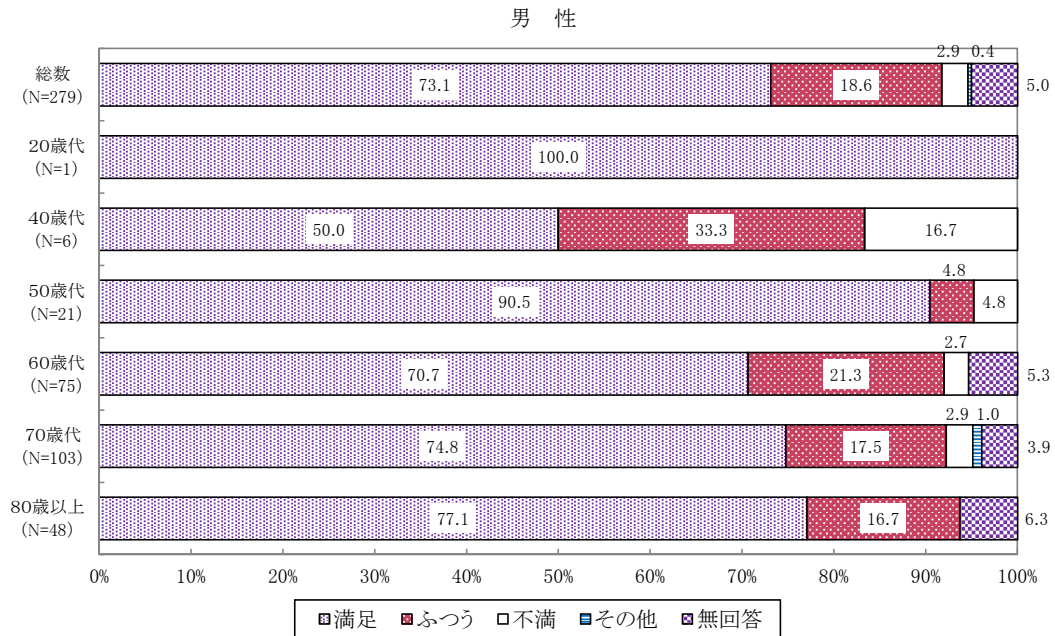
疾病別にみると、「満足」と回答した患者は「子宮体がん」が最も多く100.0%で、次いで「子宮頸がん」の80.0%、「大腸がん」の79.2%となっている。（図28）

図28 疾病別の今日診察を受けた病院での医師との対話に対する満足度の状況（基本集計）

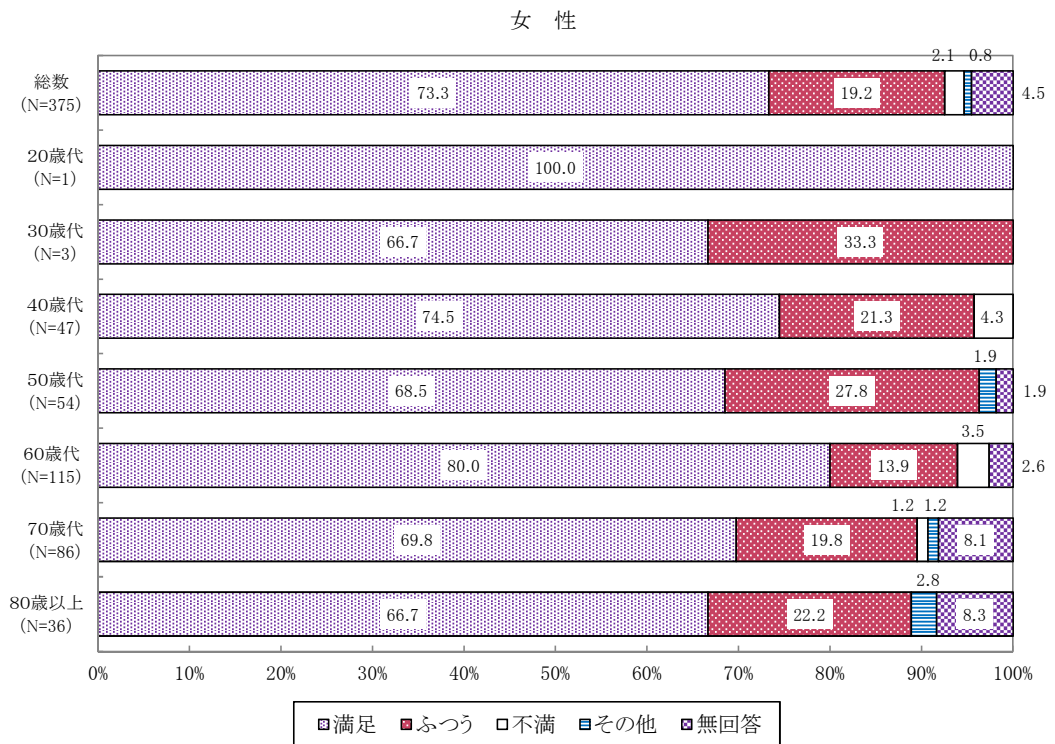


性・年齢別にみると、「満足」と回答した患者は、男性73.1%、女性73.3%となっている。「不満」と回答した患者は、男性・女性ともに40歳代で最も多くなっている。（図29）

図29 性・年齢別の今日診察を受けた病院での医師との対話に対する満足度の状況（基本集計）



注：総数には年齢不詳を含む。また20歳未満及び30歳代の回答数は0であった。

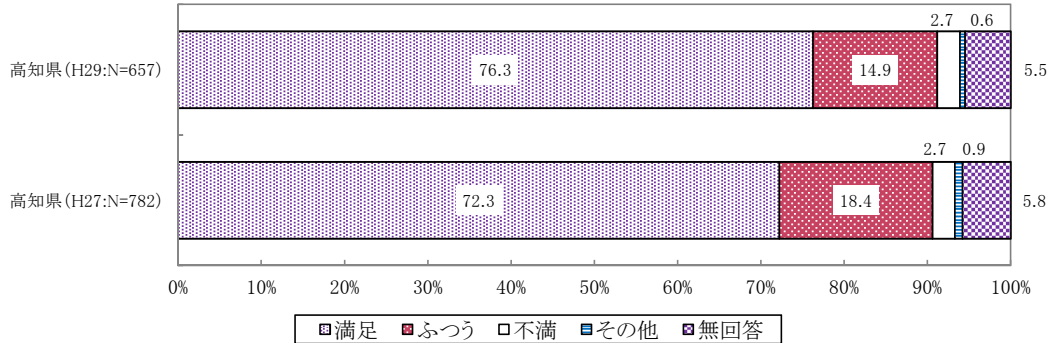


注：総数には年齢不詳を含む。また20歳未満の回答数は0であった。

ウ 病院に対する全体的な満足度

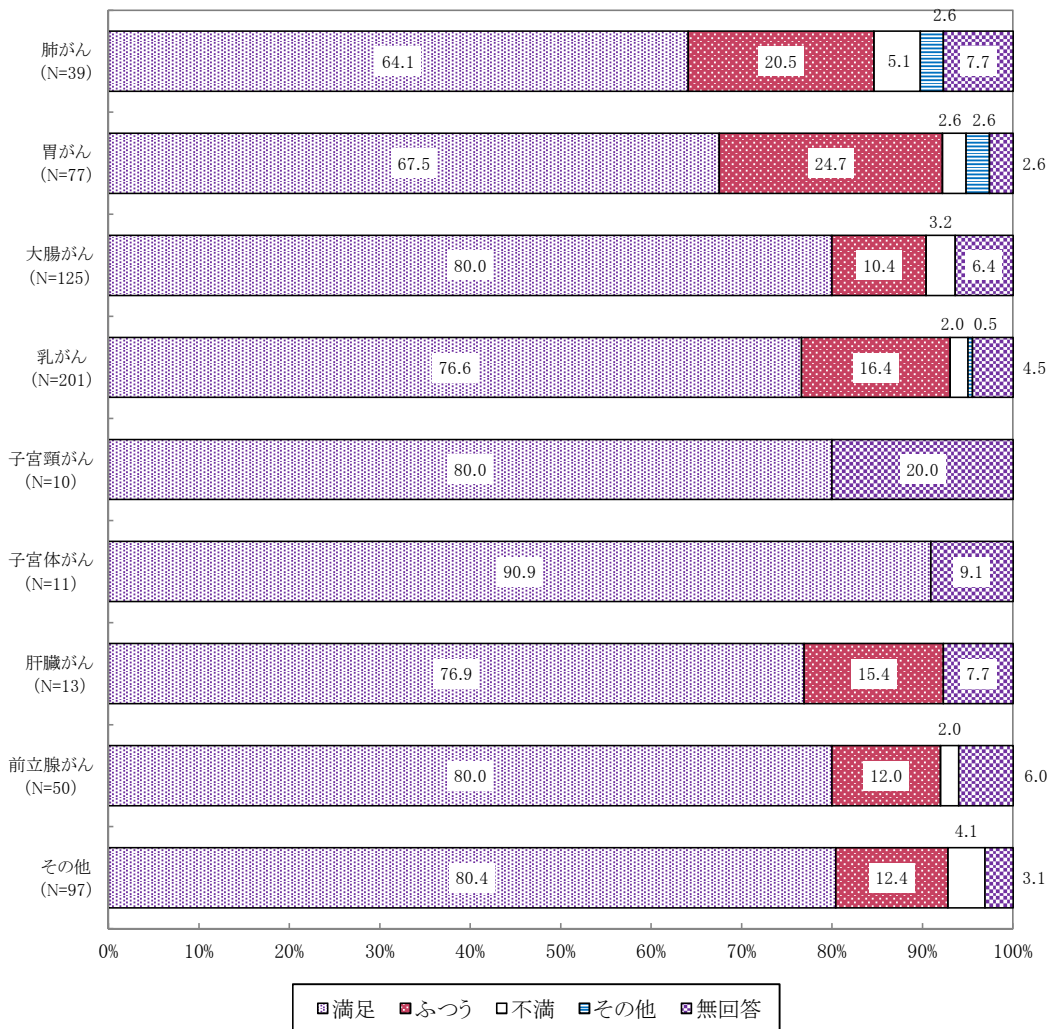
今日診察を受けた病院を全体として「満足」と回答した患者は76.3%、「不満」と回答した患者は2.7%となっている。また、満足度を平成27年度と比較すると、4ポイント上回っている。(図30)

図30 今日診察を受けた病院に対する全体的な満足度の状況（基本集計）



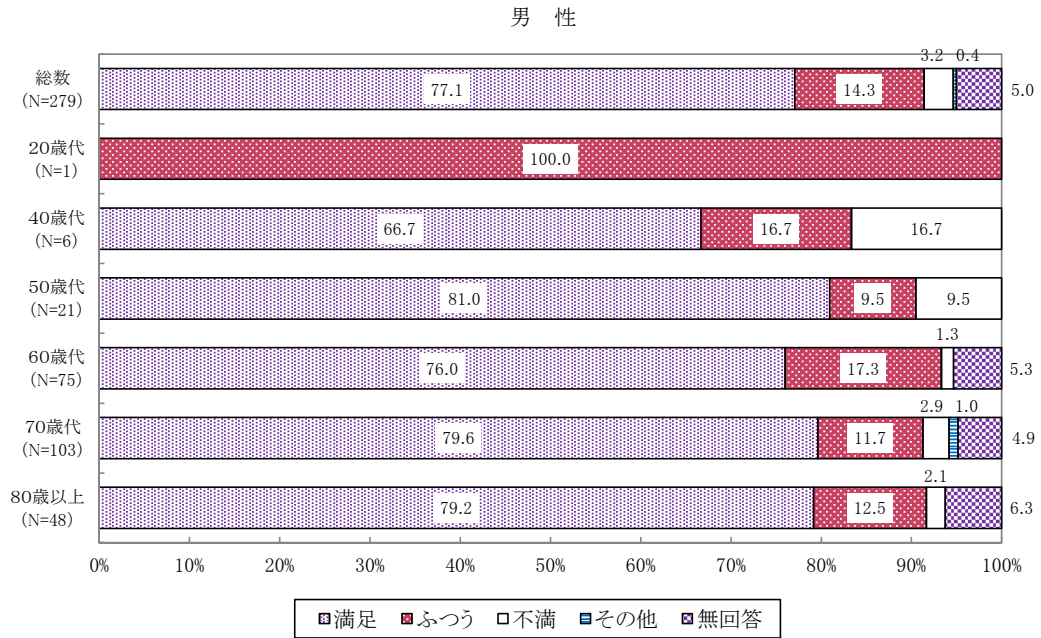
疾病別にみると、「満足」と回答した患者は「子宮体がん」が最も多く90.9%で、次いで「大腸がん」、「子宮頸がん」、「前立腺がん」の80.0%となっている。(図31)

図31 疾病別の今日診察を受けた病院に対する全体的な満足度の状況（基本集計）

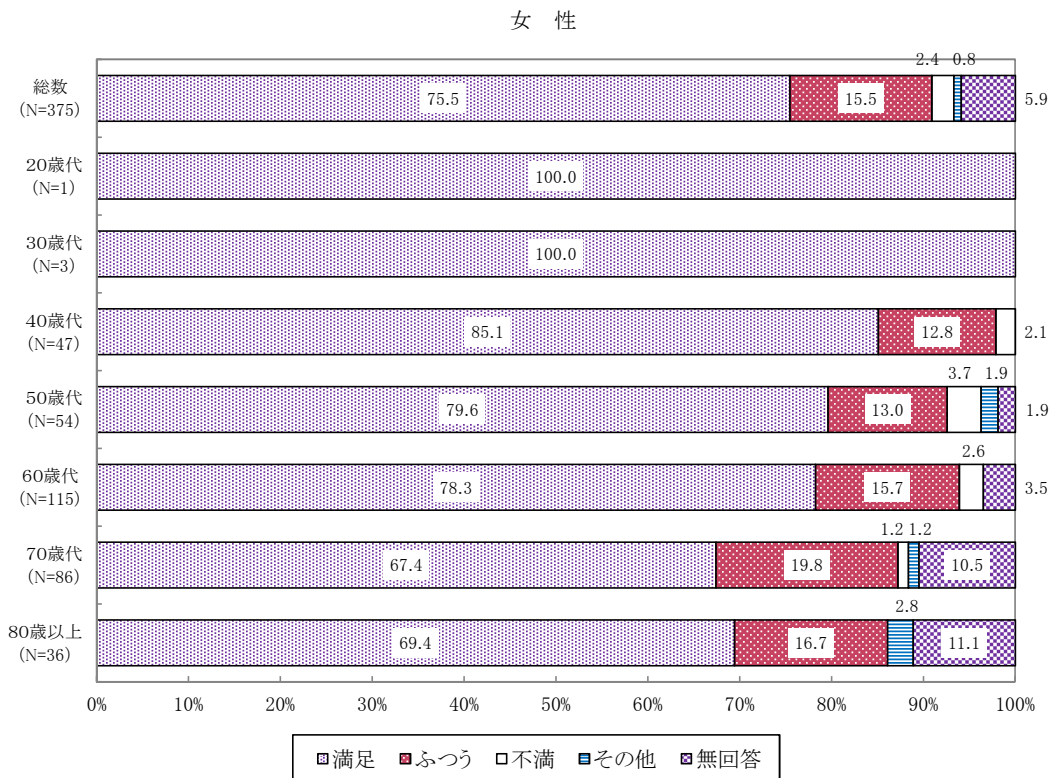


性・年齢別にみると、「満足」と回答した患者は、男性77.1%、女性75.5%となっている。「不満」と回答した患者は、男性が40歳代、女性が50歳代で最も多くなっている。
(図32)

図32 性・年齢別の今日診察を受けた病院に対する全体的な満足度の状況（基本集計）



注：総数には年齢不詳を含む。また20歳未満及び30歳代の回答数は0であった。



注：総数には年齢不詳を含む。また20歳未満の回答数は0であった。

5 自由記載等について

(1) 初めて治療を開始した時に不満を感じた方の自由記載内容

医師の説明に対する満足度を聞いた問6-2に「非常に不満」または「やや不満」と回答した自由記載内容。

- ・ 手術の日を決める前に、選択肢がまだあることを教えてほしかったです。
- ・ 診療・治療内容の説明はあるが、本人はパニックになっていて覚えていないし、専門用語で言うので分からない。医師は常に聞きたいことはないか？と聞くが、聞きたいことが分からない。
- ・ 本人1人で診察を受けている時、「あなたはステージ〇のがんです」の告知はさすがにきついです。受け入れるまでにかかなりの時間がかかる。一番最初のケアは大事だと思います。

治療を開始した病院に対する全体的な満足度を聞いた問6-3に「非常に不満」または「やや不満」と回答した自由記載内容。

- ・ 一人の医師が患者をたくさん持ちすぎだと思いました。
- ・ 精神的サポートをもっと期待します。
- ・ 高血圧でかかっていた医師に、がんの診断が出た半年も前に食物の通りが悪い事を話していたが、逆流性食道炎で片付けられ、病気を放置した事が悔やまれる。
- ・ 初めてセカンドオピニオンを受けたとき、病院から追い返されたことがある。

(2) 入院治療時に不満を感じた方の自由記載内容

入院治療を受けた病院に対する全体的な満足度を聞いた問10-3に「非常に不満」または「やや不満」と回答した自由記載内容。

- ・ 「がん」を宣告された患者本人と家族は、たとえ通院での治療でも、その生活は大きく制限されることになり、住居等、経済的にも負担が増えてきます。その通院が「在宅療養」ではないと言われたことがあり、在宅での治療が増えていくであろうこれからの時代、医療側がそういった考えでいることに不安を感じた。
- ・ 質の悪い看護師が何人もいた。
- ・ 今後の医療費のことがずっと不安、心配。

(3) 医師への質問や相談時に不満を感じた方の自由記載内容

患者から医師に質問や相談をした時の医師の対応に対する満足度を聞いた問15に「非常に不満」または「やや不満」と回答した自由記載内容。

- ・ 初めての抗がん剤の後3日間痛みが強く、頂いていた痛み止めの薬も効きませんでした。担当医が週に1度の診療なので、他の医師では別の薬を出してもらえず辛かったです。お忙しいことと思いますが、できれば連絡を取っていただいて別の薬を出していただける体制（連携）があれば嬉しいと思います。
- ・ 薬の副作用が来て重症（皮疹）で身体に出たのでプレドニンを飲み始めたのですが、その時増量に対する不安があったので先生に話したところ、先生の治療方針があるのでと言われた。もう少し先生と話して納得して薬を飲みたかった。

(4) 現在受けているがん診療に不満を感じた方の自由記載内容

現在治療を行っている病院に対する全体的な満足度を聞いた問16-3に「非常に不満」または「やや不満」と回答した自由記載内容。

- ・ 週によっては点滴患者さんが多すぎてベッドのない患者さんはソファで点滴を受けています。病院で患者さんの来院の記録をとって、平均的に来院してもらってベッドが無いようなことがないようにしてください。
- ・ 主治医と相談、治療の方針、病変の相談等を取る時間がほしい。

(5) がん診療に不満を感じた方の自由記載内容

(1)～(4)の複数に「非常に不満」または「やや不満」と回答した自由記載内容。

- ・ まだまだアメリカ等に比べると薬(抗癌剤)の認可が下りるのが遅い気がしています。
- ・ メンタル面についてのケア。
- ・ 化学治療の副作用について心配している。抗がん剤に対しての耐性について知りたい。QOLとがん進行との兼ね合いに不安がある。腫瘍のみに効く抗がん剤の開発促進。
- ・ 患者を支える為の体制もまだまだ不十分だと思います。
- ・ 病院に行っても採血してデータで判断するだけで抗がん剤治療をやっているが、実際、色々患者として分からないことだらけです。
- ・ 医師との面談では親身になってもらっている感じがしない。
- ・ 治療はガイドラインのことしかしないので不満。
- ・ がん患者さんが増えている現在、集える場所やサポートできる人材も増えていけば嬉しいです。
- ・ できなければできないで今の時代は専門医の病院や医師を勧めてあげるべきです。簡単に人間ドックできるみたいに言わないでほしいです。
- ・ 現行の集団検診、市町村検診では見落としが多く余り意味がない。

(6) その他の自由記載内容

1. がん予防及び早期発見	
カテゴリー	記載内容
(1) がん予防に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 早期に、また、定期的を受診すること。規則正しい生活、暴飲暴食、酒の飲みすぎ、たばこ禁煙。
(2) がん検診の重要性に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・ がんについては早期発見（検診）、早期治療が重要だと思いました。自分も切っけのけたら済みと思っていましたが、やはり転移や再発するするのが、がんと再認識しました。また、検診を毎年受診していても、義弟の場合は発見から1年もたず逝ってしまいました。若い方にも検診の勧めと、検診精度向上を望みます。 ・ がんは今身近な病気になりました。今まで他人事のように思っていた。自分ががんになり早期発見が大事だと知り家族、友人、知人にがん検診を勧めています。 ・ がんは早期発見、早期治療が一番だと思うので、常に健康診断で指摘された内容については、早く病院に行くべきだと思います。 ・ 定期検診がなかったらと思うとぞっとします。検診の大切さ、今ではみんなに伝えてます。 ・ 以前は毎年検査をすることが早期発見になり少しでも苦しみが和らぐと思って検査をしていましたが、6年間しなかったために見つかるのが遅れてしまった。 ・ 各職場、家庭において、がん検診を義務づけるようなことができれば良いのですが。せめて今の倍以上の検診率を目標に県市町村は取組んでいただきたいと思います。予算、人員面の制約もあるのでしょうかぜひ取組んでほしいものです。 ・ 市の集団検診で乳がんが見つかり、早期発見だったので命が助かり大変感謝しています。 ・ 毎年必ず子宮がん検診、胃カメラ、腸カメラを行ってきました。それは1年に1回しておれば万一、がん発見できてもステージが軽いと思ったからです。（自己検診で病院受診）しかし、がんは全く想像もしていないところに発生、診断は末期でした。 ・ 若い年齢からの健康診断に気が付いた。非常に大切なことだ。早期の発見は長く生きられる！仕事もできる。 ・ 早期発見、治療が大切です。年に一度は検査したほうが良いと思います。術後の経過もよし。定期的を受診、検査しているので再発がないよう日々過ごしています。 ・ 早期発見、早期治療、定期的健診の大切さを感じています。（実感しています） ・ 早目、早目の検査等ですんどいですが、すごく大切だと思います。 ・ 定期健診（人間ドッグ、健康診断）の重要性をつくづく感じました。多分、職場での健診を受ける時期が一年遅かったら、進行した状況での治療になっていたと思います。 ・ 年に一度の検診がいかに大事であるかよく分かります。がんに対する早期対策がもっとも大事であることがよく分かります。

<p>(3) がん検診の体制・項目充実に関すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県は年1回の検診を勧めています、年2回は必要ではないでしょうか。(今は血液検査であらかた分かる時代です。) ちなみに私は6カ月以内に発生したようです。 ・ 私の乳がんが発見されたのは30代だった。自覚症状は少しあり、市町村の検診はかかさず受診していたがマンモグラフは40代からだった。今は30代で乳がんになる人が増えてきてます。私のような悲しい思いをする人がないよう検診をする人を増やして欲しい。 ・ ピロリ菌の検査の国の補助(一部でも)があれば胃がんになる人が少しでも減るのではと思います。 ・ 政府の言う軍事面での国民の生命、財産、安全を守るという危険な面ばかりでなく国民の健康を守る観点にも変換してほしいものです。県政の努力をお願いします。 ・ 集団検診の申込の電話をしたら、1時間位の間何度かけてもなかなかつながらなかったの、そこをもう少し改善していただけたらいいと思います。 ・ 自分の場合は、市町村で実施しているがん検診でがんが見つかったので、早い時期から毎年がん検診は受診するべきだと思います。 ・ 現在、各市町村でがん検診が行われておりますが、それに加えてがん予防のための生活指導に力を入れていただきたいと思ます。 ・ 検診で全ての「がん」が見つければと思います。例えば血液検査で。 ・ 食育、保健体育の強化と同じように消化器系統等々のカメラの促進を1年に1度は学校時代から義務付けられるような日本になってほしいと思います。
<p>(4) その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ がん検診を受けていれば大丈夫ではないので、がん検診の受診率を上げるのは分かるが、自己検診の大切さも伝えてほしいと思います。 ・ 早期発見、早期治療。私の場合、乳がんでしたが、自身での触診が大事。周囲の人たちには豆粒で発見できたら良いと話しています。 ・ 早期発見が大事だと思います。 ・ 定期的に検診を受けること、胃カメラを飲むのがつらい。 ・ がん＝死だと思っていた。がんだとって恐れることはない。早く気付くことが大事だと87歳は思う。 ・ 下血や便の血の混じりを痔と勘違いしてしまい、放置してしまいました。正しい知識があったならと後悔しております。また、肛門、尿管、膣など、恥ずかしいが先に立ち、ついつい後回しにしてしまいました。体を守るために心を開いて、相談できる場がもっと身近にあればと思います。 ・ 入浴施設(お風呂屋さんとかジムのお風呂とかホテルのお風呂とか)にイラストで乳がんの見つけ方の看板など貼れば良いと思う。

2. 医療水準の向上	
(1) 医療機関の整備・機能充実に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・ がん治療診療施設の充実、増設。 ・ 血液専門の病院が2カ所しかない為困った。 ・ 大きい病院はどこが専門か分からないですし、紹介状がないと対応が悪く、待ち時間もとてつもなく長いので、足が重くなります。
(2) 医療に携わる人材に関すること（接遇・スキル）	<ul style="list-style-type: none"> ・ がんに対する不安は軽重に関わらず付きもの。そんなとき、担当医の一言にどれ程安心できるか否か。私の担当医のアドバイスに心癒されております。 ・ がん検診をすることは大事で、やはり検査の上手な先生に受けたほうが良いです。私は個人クリニックで受けましたが、検査が上手だと言われているところへ行きました。 ・ 化学療法の副作用は、薬剤師に読んでおくようにともらった資料の内容と職員の言動に違いがあり、治療全体に不信感も生まれかねないと思った。看護師と医者との連携が取れているのか、いないのか…。信じることができない時期があった。 ・ 初期対応が非常に悪く、それ以来県外の病院となり、高知では〇〇病院となりました。県や市は医療機器ではなく人材をなんとかして欲しい。 ・ 「あなたの病気は治りません。あなたの命はあと3カ月。見たところ元気そうだから4カ月ですね。これからも抗がん剤治療して副作用でつらい思いをするのか、そのままでもいいことをするのか、終活を考えたらどうですか」という言葉が返ってきた。私は、病気だと言われなければ、外観では健康人そのものであるのか、なぜ人の命をいとも簡単に言い切れるのか、これでも医者かといっぺんに不信感が募ってきました。私は、医者との使命とは自分の医療技術を最大に駆使して患者に寄り添って、一日でも楽しく長生きしてもらうことではないかと思う。人間として医者との使命とは何か、原点に立ち返り研修会を開くなど研鑽を願うものである。AI化の進展が目覚ましい今日、医療の世界はどう変わるのかも合わせて。 ・ 自分の病名（リンパ腫）に対して、絶対数が少ないのか余り情報が開示されない。 ・ 主治医（医師）の接遇が最も大切です。 ・ 1カ所で残念ながら見付けてもらえませんでした。娘がもう1カ所行ってみたらと言うので受診しました。見付けてもらったときはすっきりしました。先生には患者のいうことをもう少しよく聞いてもらいたいと思いました。 ・ もっと医者も人間味ある、情のある人であってほしい！

<p>(3) 医療連携体制の整備に関すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> • がんと診断された時に、治療を受ける病院を決める為の参考として、拠点病院（都道府県、地域）の症例数や治療の流れなど、一覧公開されたものが欲しい。 • がん治療を選択するにあたり情報提供できる機関や、セカンドオピニオンのように相談、治療を選択するにあたり円滑に連携できるシステムがもう少し普及できるようになればいいと思います。 • 信頼していた主治医が変わり、ちょっと不安になったところへ学会の治療変更など、長期に渡る（10年）治療の中で最新の治療で対処いただいているのだろうか！？少し不安もある。 • 治療中に担当医が代わる（転院）と、次の医者との治療等について、対応方法が十分でない。転院した。 • 専門でないなら早い時点で大きい病院を紹介してほしいです。検査代ばかり掛かり発見できず紹介もせず手遅れになるようでは困ります。病院を変えたらまた検査（同じような）をして、何度もCTを取って無駄が多い気がします。 • 薬局に抗がん剤がなく不便があった。
<p>(4) セカンドオピニオンに関すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 病院で乳がん診断をされ、医師が「もう一軒病院へ」と言ってくれたので、自分で病院選びをして診てもらったのですが、治療はその先生にしてもらいたいと思いました。
<p>(5) 治療負担軽減に関すること（副作用等）</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 以前より医療が進化してはいるが、抗がん剤の副作用のしんどさはどうだろうか。 • 抗がん剤の副作用に疲れました。涙腺がふさがって、涙が頻繁に出る状態になった。涙腺の手術が必要になる。先生は質問に答えてくれる。アドバイスもよくしてくれます。満足しています。 • 治療後の副作用の改善にあまり力を入れてないように思う。 • 手術後15年間ホルモン投与続けています。最近2カ月休んでいるけど肥大するようです。副作用が出るので大変です。諦めています。主治医の先生がよくしてくれ、安心して通院しています。 • 薬による難聴（耳）、視力の低下、呼吸器の異常等、副作用が多く体力低下と共に運動不足も重なり、体重の回復もしない。現在の担当医に相談して、月2回の抗がん剤点滴を1回に減らして進行を抑えているが、もう少しマイルドな投薬、点滴を望んでいる。 • もう少し短期間でできたらいい。 • 本人が一番つらい思いをしています。治療時間が掛かることと、薬を他の場所でもらわなくてはいけないことです。院内でいただけると、とても助かりますが・・・。

<p>(6) がん研究（新薬、先進治療）に関すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実際死亡3大原因が見つかるのは何%でしょうか？細胞検査で異常が無く9ヶ月でステージ4に進行するガンに対処法は？尚、細胞検査で良種の検査結果が9ヶ月で肝臓、肺に転移することに医師は疑いを示していました。 ・ がんの薬が良く効き、値段が高くない薬がより多くできることを希望します。 ・ 新療法、新薬も次々と開発されるニュースを目の当たりにします。しかし医療の現場ではなかなかそれらの採用は困難で即採用ということにはなりません。保険の対象にならなくても高額でも新しい療法があれば患者は望んでいると思う。医師から「今こんな療法が・・・薬がある等」の話もしてほしい。先端医療も積極的に取り入れるようにしてほしい。 ・ 血液検査で全てのがんを識別できる日が2～3年ということ。1日も早く来ることを願っています。 ・ 研究がどんどん進んで、がんに関わる薬が一日も早くできることを願っています。 ・ 抗がん剤の副作用で苦しんだ。副作用のない薬の開発を期待しています。 ・ 新しい検査法、新しい治療法が日々報道されている。患者に対して、より良い治療法を早く確立して欲しい。がんの種類によって、いろんな選択肢がある。負担の少ない方法を知りたいと思う。 ・ 新しい治療、新薬の開発。 ・ 僅かの血液で幾つかのがんが分かるともいわれるこの頃。少しでも一日でも早く一般的にできることを願いたい。 ・ 分子標的薬による治療を続けているが、年齢的なこともあり血圧の変動、痴呆的な症状が出てきている。薬と関係あるのかないのか。医師にも不明なのだと思うが、老人特有の症状に対する説明がもう少しあればと思う。
<p>(7) その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 標準治療が患者のための治療になることを望みます。（そのような対処を受けることができました。）
<p>3. 患者等への支援</p>	
<p>(1) がん相談体制の整備・充実に関すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ まず告知された後、今後の治療や手術をどうするかを相談できる機関の紹介をしてほしい。一度立ち止まって専門家の人と話す場を提供してほしいと感じました。 ・ 検診後の告知から治療に至る迄の情報、知識がなく心理的に不安だった。病院に相談センター、患者会もあったが診察時に知る機会もなく、ただ不安だけが大きくなっていった時期があった。
<p>(2) がん相談窓口に関すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知識もあり安心して相談できる会があることを多くの方に知っていただき心の安定が得られることが、いつも不安を持ち続け戦わざるを得ない者としてはとてもありがたいし、不安いっぱいの方にも少しでも安定をとと思います。 ・ 相談コーナーの活用PR。患者会の拡大。 ・ 自分のがんになってみて、今の医学では不治の病ではなくなってきているということを感じています。それだけに生活の質をどれだけ元に近づけるか、病院内にそういう相談窓口があると良いなと思います。 ・ 相談したいと思ったこと（日常生活の些細なことですが）は、いろいろありましたが、自分の説明不足、対話力の乏しさにうんざりもしましたし、医療の方々の忙しさに何でも相談することは出来ないこともありました。

(2) がん相談窓口に関すること (つづき)	<ul style="list-style-type: none"> 2003年当時からいうとすごく進んでいるように思います。今後再発、転移などで再度治療する時にはどのような対策、制度、医療が受けられるのかを相談センターと共に考えられればと今思っています。そのためにも不安(経済的、就労)を少なくして最善の治療が受けられればありがたいです。
(3) 患者同士の交流の場(サロン)の充実に関すること	<ul style="list-style-type: none"> がん治療には限度があるだろうが、余命が分からないまま治療する中で、本人が生きがいを感じる、趣味等を見つける後押し。又、見つけた後の応援をしてくれる団体があれば素晴らしいと思います。 健診、がん検診の大切さを実感しました。がんはメンタルの部分で負荷がかかる病気ですが、初期～末期の程度に関係なく参加できる交流の場があれば良いと思います。(知人は初期だったので、その程度では参加できないようなことを言われたとのことです。)
(4) がんに関する情報提供の充実に関すること	<ul style="list-style-type: none"> 聞きなれない病名【多発性骨髄腫】を言われ、生存率とは聞くと「3年です。」との答えに驚きと不安、ショックで今思い出しても信じられませんでした。その上、完治しない病気。これからどのように向き合っていけばいいか不安でいっぱい。主治医の先生を信じてお任せしているところです。サポートセンター「〇〇〇」を利用したいと思っています。 周囲にがんの相談ができる人がおらず、がん相談員さんが病院におられ、優しく分かりやすく病状を説明して下さり、救われています。不安を取り除くためにもこのような人の配置を希望します。 “ガンと診断された時に・・・”の冊子を手にしたのは随分後からで、診察を受ける前に知りたかった事や、役に立つだろうと思える事が多くあった。 私は医療従事者なので、仕事で乳がん勉強会や学会に参加して、様々な情報を得ることができるが、一般の患者さんはそのような機会が都会に比べて非常に少ないと感じる。 病名によって違いはあると思いますが、もう少し生活の仕方、食事はどういう物を食べたらがんに良いのか、いつ運動(ウォーキング)などしたらいいのか。寒いときでも時期によって体を動かしたほうが良いと思うので、計画表みたいなものがあればそれに合わせて生活しやすいのと思います。
(5) がん患者の就労に関すること	<ul style="list-style-type: none"> がん治療のための通院・入院に「がん休暇」があるといいなと思います。私の職場ではリフレッシュ休暇や夏休みを使うように言われます。がん対策基本法で、がん患者の働く権利をもっと守ってほしいです。
(6) その他	<ul style="list-style-type: none"> しこりができそれを触る怖さを実感しました。他の人にはこんな思いはしてもらいたくないので検診を受けてもらいたいです。そして、感じたのは検査を受けてから手術までの不安と心配と術後の不安と心配があります。心の隅に再発の不安もあります。

4. 緩和ケアの推進	
(1) 緩和ケア実施体制の充実に関すること	<ul style="list-style-type: none"> 患者、家族の心のケアをしっかりとしていただきたい。 心のケアに力を入れてほしいです。 気持ちを楽にするケアについて病院に何か案内してもらいたいと言ったところ、精神科へかかってもらうしか方法がないと言われました。私は、精神病ではないのに通うのは嫌だと思い、一人で耐えました。もっと話を聞いてくれるだけでいいので、そんな機関が病院にあれば助かると思います。 治療中、不安なときなどに緩和ケアを受けたかったなあ〜と退院してから思ったことがあります。でも、どこに声を掛けたいのか・・・声を掛けづらかったことを思い出します。
5. その他	
(1) 経済的負担に関すること	<ul style="list-style-type: none"> がん医療に対して国費などの援助があればと願います。 再発した時、仕事もできなくなると思うのですごく不安です。これだけ世間でがんの人が多いのに、国が少しは免除してくれればいいのですが！ リ्यूプリン注射、高額で大変でいつまで続ければと。お薬も高く大変です。 医療費などの補助がもっとあれば助かります。 月一回の医療代でも高い。 検診をきっちり受けていても、突然がんにかかり対策のしようがありません。治療費も高く、家計は大変です。2人に1人ががんにかかる今日、もう少し治療が安くできるようになることを願う者です。 毎月の医療費が高く毎月の生活が少し苦しい。働きながら治療してはいるが毎月の給料も少ないので辛いです。 良い薬があるのは分かっていますが高く使えません。 治療費がもう少し安くなれば幸いです。 医療費に対する負担もありますが、治療が長期（5年以上）通院が遠距離になると家計に影響する。 多くの治療が通院でされている状態も経済的、体力、心理面でも負担は大きい。高額医療費など制度はあっても治療費は高額。県としてのがん患者への支援、補助金などの制度を考えてほしい。
(2) がんに関する不安感に関すること	<ul style="list-style-type: none"> 何もかも初めてなので、余りよく分かっていないところもあります。今まで一度も入院したことがなく、とても不安でした。 再発について医師より説明はあったが、不安はいつもある。 抗がん剤投与が1年続きました。3週間に一度のペース、2週間に1度は体力的に無理でした。今年5月末で一度抗がん剤の投与をやめています。しかし、今後どうなるのか不安があるのは事実です。再び抗がん剤が始まるのかどうか、又は、手術が必要なのか先が見えないのが怖いです。 入院治療中はわりと医師と話ができたと思う。今、外来で経過観察中ですが、とにかく時間が少ない。いつも“再発”が頭の隅にあるのに、不安を受け止めてもらえるほど外来では時間をかけてもらえない。それだけ患者が多いということでしょうか。

(3) 医療への満足に関すること

- ・ がん検診をうけ治療をすぐに開始！一度女性医師に変えられたことで不服を申しました。その後の医師とは信頼をしてご相談できました。
- ・ 先生の患者に対する対応は心に安心感を与えてくれる実に優しい先生です。看護師さんの優しさに心より感謝しています。
- ・ これからも病院を信じて診療を続けていこうと思います。よくお話を聞いてくださる先生には本当に有り難いと思っています。本当に感謝しながら残りの一生を頑張って治療していこうと思います。
- ・ その都度、お医者さんや薬剤師さんに相談して聞いています。私の納得する返事をしていただいています。非常にこの点は満足しています。
- ・ よくしてくれています。
- ・ 先生には大変感謝しています。
- ・ 緩和ケアでは、ゆったり話して診察のときは言葉を選んで話すように心掛けている。治療内容は自分に合っているので満足です。落ち込んだときは看護師さんがフォローしてくれます。医師も自分に合った治療をしてくれ、体もすごく普通に過ごしています。少しずつですが、医師と意思疎通ができてきて自分も楽になってきました。
- ・ 医師はもちろん看護師や検査技師さんの丁寧な対応が温かくて気持ちが落ち着いた。病院通いが苦痛なく逆に癒される場となっていたと思う。
- ・ 自分が想像していたのとは違って傷の治りや痛みなど、体力なども問題なく順調に治っていきました。本当に今回お世話になりました。主治医の先生を必頭に、放射線の先生、看護師さんなど、全ての医療スタッフの方々に感謝しております。入院生活のほうも快適に過ごすことができました。
- ・ 現在の高度医療技術に助けられていることに大変満足しています。
- ・ 抗がん剤治療等で副作用のため苦しいときも親切に対応してくださり感謝しています。また、自宅療養中急変等あっても親切に対応してくださっています。高い抗がん剤を受けて1割で安くしてくださり、ありがたいと話すと、国とみんなに助けをもらいましょうと言ってくださり、本当に改めて国、みんな、病院の皆様に感謝しました。
- ・ 今回、治療（手術等）をしていただいた医師に本人は命をあずけてもよいと思うほどの信頼があり、病気に対する不安、治療（手術）に関する不安等、全てにおいて何の不安もなく、入院～手術～退院と過ごすことができました。看護師さんたちにも大変よく接していただきありがとうございました。
- ・ 入院中、現在の通院治療中、どちらの看護師の皆さん、医師の皆さんの患者に立場に寄った行動、治療、指導の全てが私のこれまでの治療では、全く知らなかった親切で丁寧な看護にはすごく感謝し、ありがたく思っています。
- ・ なんとか抗がん剤のほうにも慣れてきたようで落ち着いています。今のこの状態で、体調のほうもメンタルのほうもベストだと思っています。治療も頑張ってやっついこうと思います。

<p>(3) 医療への満足に関すること (つづき)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全く未知の世界に入った私でしたが、家族はもちろんですが、医師、看護師さんのやさしい対応に大変感謝しました。気軽になんでも聞ける、話してもらえる、何よりもやさしい心で接していくことが一番大事だと思います。 ・ 担当の先生を信頼し、手術及び治療は全て先生の指示に従うつもりでしたので、不安及びセカンドオピニオンは考えたことはありませんでした。 ・ 先生のおかげだと毎日感謝してます。命をもらった以上、人の役に立てる迷惑をかけない生き方を心がけています。これも外科に高知から幡多までおいでしてくれる先生のおかげです。本当にありがとうございます。 ・ 病院と担当医がよく相談にのってくれたので特に意見、要望なし。 ・ 病名を告げられて、手術すれば治癒すると告げられて安心して手術を受けました。早期発見していただいて良かったと感謝しております。 ・ 体力弱まり年とともに、がんも一緒に増え、もう切れないので肝臓で最後になってくれればと思ってます。自分を思うに体に過信してまして。若い方は検査を望みます。最初にオペをしていただいた先生、皆様に感謝をしています。 ・ がん対策はこの頃大変よくなり、早いうちに治療ができて本当に有り難いです。 ・ 職場も病気休職を認めてくれましたし、高額療養制度などにも助けられており、今の制度は有り難いと思っています。 ・ 定期的に検査して診てもらっているので、今は心も落ち着いています。このように続けてしていただけることが希望です。
<p>(4) その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 病気に不安はあっても、信頼できる医師を選んだ以上全てお任せし、指示に従うことが大事と思う。 ・ リレーフォーライフは、がん患者同士の交流、医療者が患者の想いを知るきっかけになるので、今後とも続けて行ってほしい。